

こうちこどもファンド

平成24年度 審査会 報告書



平成24年6月24日(日) 13:30 ~ 18:00

高知市文化プラザかるぽーと 11階大講義室



【 目 次 】

開会（13：30～）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3

開会のあいさつ 高知市長 岡崎誠也
審査員等の紹介
審査の流れ

応募団体による公開プレゼンテーション・質疑応答（13：40～）・・・ P 6

あつまれ!土佐チル
浦戸小学校児童会 まちづくりお助けレンジャー
大津子ども会連合会「クルック・ソングメイツ」
がんばれ高知工業高校応援隊
キッズ土佐山
高知市立介良中学校生徒会
高知市立横浜中学校生徒会「横中ボランティアの会」
太平洋学園コミュニティー協力隊
匠カフェ実行委員会
地域記憶プロジェクト実行委員会
PAPAS
一ツ橋「ほほえみキッズ」
まきえキッズ

再度の質問時間（16：00～）・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3 5

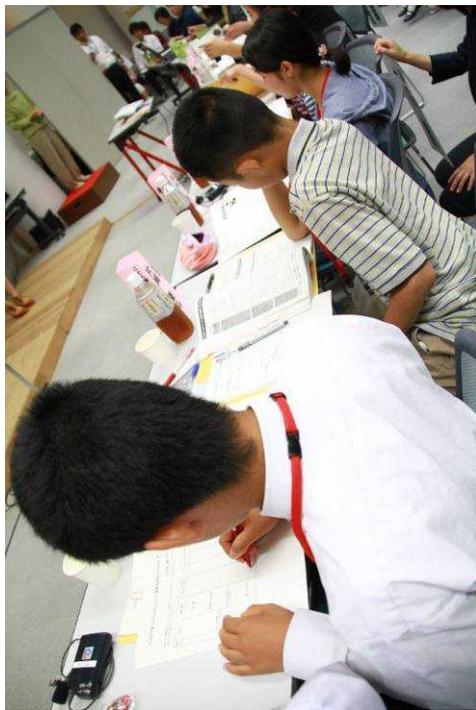
申請団体交流会（16：15～）・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3 9

審査会（別室）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5 0

審査結果発表（17：30～）・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5 1

審査結果発表
審査委員長からの講評
こども審査員からの感想発表





【 開 会 】

開会のあいさつ

高知市長 岡崎 誠也

みなさん、こんにちは。今日は私たちにとっても大変楽しみな日を迎えることができました。

日頃から、各小学校や中学校を回らせていただいておりますが、子どもたちがまちのことや、また例えば環境の問題、そして最近では防災の問題、地域の高齢者の見守りの問題、本当に真剣に考えていらっしゃるということを、色々な発表を聞くにあたり強く感じておりました。子どもたちのそういう真剣な思いを、できるだけ事業につなげていきたいと考える中で、子どもたちの想いを実際に事業に

しているところが、実はヨーロッパの国にもございまして、ぜひ日本の高知でもやりたい、と勉強してまいりました。そして、このこどもファンドを立ち上げました。

今年が1年目となり、子どもたちの提案がどれくらい集まるかと私たちも心配しておりましたが、13のグループから、様々な提案をいただくことができました。

今から子どもたちにプレゼンテーションをしていただきますが、小学生、中学生、高校生のこども審査員、そして早稲田大学の卯月先生を始めとする、大人の審査員の皆さまにプレゼンテーションを聞いていただいた後、審査をお願いするということになっております。

高知市では、大人のまちづくりファンドを約10年前から行っておりますが、卯月先生にはそちらでも大変お世話になっております。今回のこのこどもファンドの立ち上げと方法につきましても、大変ご尽力くださいました。誠にありがとうございました。

今日は、当然子どもたちが主体でございますが、関係者の方々もお集まりくださっています。どうも私が見た感じでは子どもさんの方が冷静で、大人の関係者の方が緊張しているような感じです。子どもたちはきっと素晴らしいプレゼンテーションを見せてくれると思います。

本日の審査会をご覧くださいましたらわかると思いますが、本当にこれからのまちづくりを、子どもたちは真剣に考えています。そのことを広くみなさんに知っていただきたいと思います。そして、高知市としましても、実際に素晴らしい提案を、事業や仕事の中で、地域の中で活かしていきたいと考えておりますので、ご支援をお願い申し上げます。また、子どもたちには、まちづくり活動の輪をもっと広げてくださいますようお願いをし、ご挨拶とさせていただきます。



審査員等の紹介

大人の審査員

審査委員長 卯月盛夫委員 早稲田大学社会科学部・社会科学総合学術院教授

審査副委員長 古谷純代委員 高知県商工会議所 女性会連合会会長

新藤こずえ委員 立正大学社会福祉学部講師

廣井綾乃委員 「とさっ子タウン」元実行委員長

松原和廣委員 高知市教育長

森田恵介委員 高知市市民協働部長

山川瑞代委員 高知市総務部副部長



こども審査員

細川 悠貴(ほそかわ ゆうき)委員 高知高等学校3年

藤村 満里愛(ふじむら まりあ)委員 高知西高等学校2年

森田 大雅(もりた たいが)委員 高知商業高等学校2年

池上 勇人(いけのうえ はやと)委員 春野中学校3年

戸田 樹(とだ いつき)委員 愛宕中学校2年

片岡 優斗(かたおか ゆうと)委員 土佐中学校1年

小林 亮介(こばやし りょうすけ)委員 介良小学校6年

杉村 美歩(すぎむら みほ)委員 新堀小学校6年

井上 青海(いのうえ まりん)委員 第四小学校5年

サポート役

こども審査員サポーター 平井千加子氏 (高知市教育委員会学校教育課 指導主事)

こどもファンドアドバイザー 畠中洋行氏 (NPO 高知市民会議事務局長)

協力

NPO法人要約筆記高知・やまもも (要約筆記)

高知県聴覚障害者協会 (手話通訳)



審査の流れ

応募団体のそれぞれに助成申請した活動内容について公開プレゼンテーションをしてもらう
(持ち時間は3分間以内)

各応募団体のプレゼンテーションが終了するごとに審査員との質疑応答(5分間)

こども審査員9名が、公開プレゼンテーションと質疑応答結果から、チェックシートの「助成する」「助成しない」「迷っている」のいずれの項目に該当するか記入する。

「迷っている」という項目に記入したこども審査員が「3名以上」いる団体については、再度の質疑応答を実施。

すべての団体の公開プレゼンテーションが終了後、大人審査員、こども審査員は別室に移動し、助成をするかしないかについて審議。

審議結果について、公開の場で発表

(審査員の審議中、審査会場では、応募団体同士の親交を深めていただくという目的で、「こどもファンドアドバイザー」の畠中洋行さんの進行による交流会を実施)

【 応募団体によるプレゼンテーション 】

あつまれ!土佐チル

～子どもの、子どもによる、みんなのためのステージ!!～

これから、僕達が企画に向けて会議をしていた様子を再現したいと思います。それでは、どうぞ。

- : こどもファンドの助成金でどんなことする？
- : えー？全然思いつかん。例えばどんなことしたらえいが？
- : 私ね、説明会行っちゃったがやけど、例えば、自分らのまちの清掃活動をするとか、花壇に花植えと言いつたで。
- : もっと、自分らしいことをしたいきね！
- : あー、じゃあ例えばこども劇場のイベントでなんかやったりせん？
- : こういうのはどう？
- : なに、なに？
- : 毎年夏休みに、要法寺っていうお寺で縁日やりゆうやんか？今まではそこで肝試しをしたりとか、出たい人が出たりしよったけど、今年からは新しくそこで「こどもステージ」っていうのをするのはどう？
- : うんうん、でもなんでやりたいと思ったが？
- : 自分らで考えたことを、自分らだけで実際にするっていうのが楽しそうだったし、今までこんなことしたことないから、いい経験にもなると思ったき。
- : ああ、つまり、こどもが考えてこどもが実行する、いわば「こどもの、子どもによる、みんなのためのステージ」ってことやね？
- : じゃあ、「こどもステージ」をするって決めていい？
- : いいよ。
- : じゃあ、こんなのやりたいっていうのある？
- : マジックはどうで？
- : じゃあ、そらちゃんは何かやりたいってある？
- : ダンスやりたい。
- : 楽しそうやね。他には？
- : 劇とかは？こども劇場のこどもらで募集してみるとか。
- : じゃあ、マジックや劇を行なう、「こどもステージ」というのをを行うので、出演したい人はいませんかっていうチラシを配ったらどう？
- : そうやね、そうしよう。
- : じゃあ、どんなステージになったらいいと思う？ 私はみんなが笑顔になれて、終わった後、参加した人に「やって良かったね！」って言われるようなステージにしたい。
- : なるほど、じゃあその実現に向けてがんばっていこう！

全: おー！

ということですが、どうでしょうか？ぜひ私達に助成金をよろしくお願いします。



【細川審査員】

今日が24日で、6月が1週間しかないですが、その間にメンバーを集めて、企画を考えるというのはちょっと時間が短すぎるのではないかなと思います。10月から2月までの間、ずっと報告書と話し合いで特に活動ということが出てないですが、その辺の時間の配分というのは、今後変更してもっと内容の濃いものにできないでしょうか。

【土佐チル】

実際に何をやるかというのをまだ細かく決めていないので、これからの会議で、もっと細かく詰めていこうかなと思っています。

【細川審査員】

若干の修正はきくと？

【土佐チル】

はい。そうです。

【杉村審査員】

本番が8月26日とあるけれど、この日だけでなく、もっとたくさんの方ができるように、他にもできる日とかは予定していますか。それともこの日だけですか？

【土佐チル】

今考えているのは、8月26日の縁日のことですね。

【細川審査員】

8月のテレビに出演となっていますけど、今この段階でテレビという具体的な方法を載せられていますけれども、もしこれが出れなかったとか予定が合わなかったときに、他に手というのは？大衆に向けて、もっとたくさんの方に見せられるような案はテレビ以外にお考えでしょうか？



【土佐チル】

考えていないですね。

【池上審査員】

メンバーとありますけど、メンバーというのは確実に集まりますか？

【土佐チル】

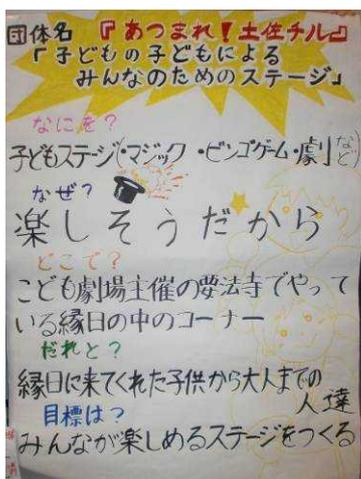
はい、多分。確実にと言えるかと聞かれるとわかんないんですね。

【杉村審査員】

もし応募してくれた人が多かった場合は、オーディションとかやるんですか？ 応募してくれた人全員にやってもらうんですか？

【土佐チル】

そうですね、考えとしては応募してくれた人全員がやれるように、もし多かったのなら、このステージ自体の時間を長くしてもらおうように頼みたいと考えています。



浦戸小学校児童会 まちづくりお助けレンジャー

～『“かがやけ・元気・前進”をするまちをつくろう』プロジェクト～

【浦戸小】

私達の名前は「浦戸小学校児童会まちづくりお助けレンジャー！」です。テーマは「“かがやけ・元気・前進”をするまちをつくろう」プロジェクトです。目標は、浦戸の人たちがあたたかい心を持ち、みんなが笑顔になることです。

次に、僕達が参加する主な活動を紹介します。夏祭りです。舞台の上で、歌や踊りのパフォーマンスを披露します。みんなで楽しみます。

次は竜宮祭りです。龍王岬の神社で神事をし、こども達でパレードをします。高学年の男子は浦島太郎に、女子は乙姫や浦安の舞の白拍子になります。下級生はタコやペンギンになります。

次は、防災チラシ配りです。今年は、上級生が総合学習の中で防災の勉強をしています。その成果として浦戸地区のみなさんに、防災チラシを配ります。

最後はバザーです。上級生はお餅、下級生はえびせんを売ります。大人気の商品です。去年は、東日本大震災の募金をしました。夏には、ソフトバレーボール、ドッジボールを贈りました。冬には、ドラゴンフラッグを贈りました。ドラゴンとは、浦戸のシンボル、浦戸の心、ブータンのワンチュク国王もおっしゃった、心の中のドラゴンです。これで発表を終わります。実現できるようよろしくお祈りします。



【細川審査員】

全部で項目が 27 項目、みなさんが仕事をするということになります。計画という言葉を使っている箇所が 1 箇所しかない。みなさん小学生だから、なかなか自分が思ったように周りが動かないとか、自分が思ったとおりにものが進まなかったときに、学校の授業のこともあるやろうから、いつ計画、いつ準備をするのか。もし 1 個つまずいたときに、他の仕事に影響を与えないか、ということ考えたときに、もっと具体的に計画する時間というのが欲しいと思います。その計画する時間、準備をする時間は、学校の授業以外で、どういうところでやるんでしょうか？

【浦戸小】

自分達の休み時間とかに考えたりしています。

【細川審査員】

それでこの仕事量をこなせる？ 27 項目あるんですけど？ やれる自信はありますか？

【浦戸小】

地域みなさんにも手伝ってもらいます。自信はあります。

【小林審査員】

バザーで、おいしいお餅とえびせんということですけど、人気なのはいいんですけど、他にお餅とえびせん以外に何か人気のあるものってないんですか？

【浦戸小】

食べ物は、去年は、えびせんとお餅でした。うどんやおにぎりも売ってます。大人が作ってくれました。

【杉村審査員】

バザーで売ったもののお金は募金に使うのか、それともこれから活動に使うのか、それはどうですか？

【浦戸小】

はい、募金に使ってます。

【杉村審査員】

それは全部ですか？

【浦戸小】

はい、ほとんど全部です。

【池上審査員】

去年のバザーは、何人くらいいらっしゃいましたか？

【浦戸小】

100人くらいです。

【池上審査員】

来てくれる人の中では保護者が大半だと思うんですけど、地域の人たちは、ちゃんと来ていただいていますか？

【浦戸小】

来ていただけてます。

【井上審査員】

もし、人が来なかったり少なかったりした場合はどうなるんですか？

【浦戸小】

やる前にポスターとかを貼り出しているんで、あんまり少ないことはないです。

【片岡審査員】

バザーの売り上げの25,000円は、絶対25,000円取れるとは限らない？

【浦戸小】

絶対取れるとは限りません。

【森田審査員】

バザーの食品の衛生管理はどうなっていますか？

【司会】

ちょっと、ここは大人のサポーターの方に一言いただきましょう。

【浦戸小(サポーター)】

保健所にちゃんと報告をして、許可をいただいています。こどもの分と大人の分、両方報告して、許可をいただいています。



大津子ども会連合会「クルック・ソングメイツ」

～みんなで手をつなごう「こばとキャラバン」～

【クルック】

～ 踊り ～

皆さんこんにちは。私たちはクルック・ソングメイツです。ちょうど1年前、被災地の学校にピアノを贈る運動のPR隊として誕生しました。私たちはこの、こどもファンドに申し込む前に、クルック子ども会議を開いて、これからどんなことをしていきたいかを話し合いました。

この高知にも大きな地震がいつか来ると、私たちは知っています。だからその時のことを考えました。

亡くなってしまう人や怪我をする人を少しでも減らすのは大きな堤防だけではないと思います。

それは、やっぱり普段からの、人と人とのつながりが大切だよ、っていう話になりました。

そんなつながりは、どうやったら出来るのだろうって考えました。私たちに何が出来るだろうって考えました。

私たちは、今まで、色んなところで、「こばとキャラバン」を続けてきました。それをこの大津でもやろうよ、ということになりました。災害がくると、一番被害にあうのは小さな子ども達やお年寄りの人たちだと思います。だから、大津の保育園やお年寄りの施設にも行きたいと思います。そんなキャラバンでは、歌や踊り、人形劇も楽しんでもらいたいと思います。

私たちは、3月11日のことを決して忘れません。そして、あの日に「私も何かしたい」と思った、あの優しい気持ちを決して忘れません。

だから私たちはこれからも、東北への活動も続けながら、私たちの住む大津のために少しでもお役に立ちたいと本気で思っています。どうかこの、みんなで手をつなごう「こばとキャラバン」、私たちにやらせてほしいと思います。みなさん、どうぞよろしくお願いします。



【藤村審査員】

今、この活動に参加しているのが16人？これからこの人数を増やしていくことはしますか。

【クルック】

今は14名で、これからも増やしていけたらいいな、と思っています。

【古谷副審査長】

今日にご参加いただいているのは、女の子ばかりなんですけども、今後男の子が入りたいといった



ら入れるんでしょうか。

【クルック】

はい、入れます。

【池上審査員】

ピアノを贈るとありますけども、ピアノを買う資金はどこから得ていますか。



【クルック】

色々なところで活動して、そこでみんなに募金をしてもらって、それでピアノを贈ったりしています。

【池上審査員】

募金だけでピアノを買うお金はたまりますか。

【クルック】

はい。

【池上審査員】

今、何パーセントぐらい寄付がきていますか。

【クルック】

今までにピアノを、6台か7台ぐらい贈ったので、結構高いと思います。

【井上審査員】

ダンスを踊っているときに、声も出して歌ったらいいと思います。それに対してはどうですか。

【クルック】

みんな緊張していたので、これから、もっとちゃんと声も出せれるように練習していきたいと思えます。

【井上審査員】

7月の活動内容が全くないんですけども、なにかやることはないんですか？

【クルック】

大津のイベントとかに参加してやっていきます。

【片岡審査員】

ピアノを贈ることで被災地にどのような利益があるんでしょうか。

【クルック】

みんなに笑顔になってもらって、少しでもみんなが笑顔になればいいなと思って。

【杉村審査員】

募金で、ピアノを贈っていると聞いたんですけど、ピアノ以外にも募金とかをそのまま被災地に届けたりということはしていますか。

【クルック】

ピアノを贈るのに全部使っています。

【卯月委員長】

ペープサートというのはどういうものか教えてください。

【クルック】

画用紙みたいなのに、例えば鳥の絵とかを書いて、それに棒をつけて、みんなでクルクルそれを動かしながらする人形劇です。



がんばれ高知工業高校応援隊

～ 筆山における避難路案内板の設置と保全活動～

【工業】

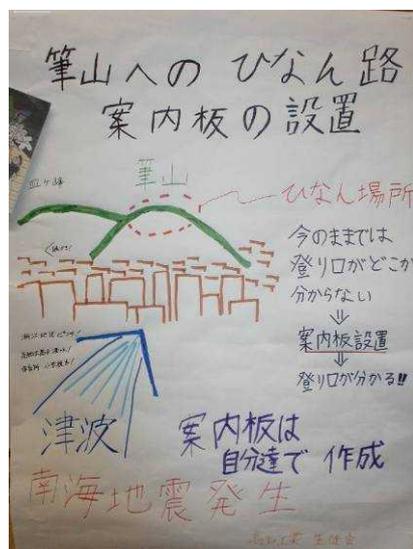
ただいまから、高知工業高校の生徒会で発表を始めます。

我々にとって、筆山とはどういった存在なのか。まず第一に周辺地区の環境面において大切とされています。その筆山は誰でも登れるよう道が設けられており、散歩などでも日頃使われております。そして第二に、南海地震時の津波の避難地として重要な存在とされています。

昨年度の東日本大震災後、我々高知県でも近い将来、南海地震が来るといわれています。高知市は津波が起るとまたたく間に水がくると言われています。そのため、筆山は安全な避難地のひとつとして指定されています。

次に、我々高知工業高校生徒会の活動です。我々はボランティア団体の「筆山を守り育てる部会」の方たちとともに筆山の頂上の清掃活動を行い、市民の憩いの場となるよう環境づくりに取り組みました。そして昨年は本校創立 100 周年を記念して桜 2 本を植樹しました。そして今後も我々は続けて清掃活動を行っていきたくて考えています。さらにもっと多くの方たちに筆山を知ってもらい、もっとも重要な避難地としての存在を確認してもらえよう、今回避難の案内板の作成を提案いたしました。

画面の4つの写真をご覧ください。我々はこの場所に作成した案内板を設置する予定です。そして、まだ決定はしてありませんがこれが作成予定の案内板です。以上で高知工業高校生徒会の発表を終わります。



【井上審査員】

8月から10月の間は計画の中に何もやっていない欄があるんですけど、8月から10月の間はどうするんですか。

【工業】

その時期は3年生が受験とか就職シーズンなので、休みがなかったらいけないので、そして1・2年生だけでは人数が集まらないので計画は入れていません。

【細川審査員】

もしこの金額が助成されなければ、この活動はやりませんか、やりませんか？



【工業】

我々はやりたいと思っているんですけども、出なかった場合は学校側で決めていただきたい。

【細川審査員】

この金額を含めて、助成が出なくてもやれる可能性があるかと。

【工業】

多分あると思います。

【小林審査員】

製作する看板で、「この先筆山の頂上」と書いてあるんですが、
写した写真のところに、山の下の方があったんですが、全部頂上
と書いてあるんですか。

【工業】

今出してる看板は例なので、基本的に筆山の入り口に立ててい
きたいと思っています。

【片岡審査員】

設置した後は、ペンキがはげたら塗り直すとかはするんですか。

【工業】

それはします。定期的に交換できたらと思っています。

【杉村審査員】

さっき写真を見て思ったんですけども、設置する場所に周りに草がたくさんあったということで、
雑草の防止とか周りに柵を立てるとか、色々なことは考えていますか。

【工業】

それは5月と11月と1月に筆山清掃活動があり、その時にまとめ雑草を刈っています。

【杉村審査員】

これからも毎回刈っていくということですか。

【工業】

そうです。

【細川審査員】

設置した後は？設置しても登り口の入り口というのは
分かるんですけども、それを立てるだけでは分からない
と思うんですよ。で、みんなに新しく道ができたよ、看
板が立って登りやすくなったという、PRをするという
そういう活動は。



【工業】

そういうのはまだ考えていません。

【片岡審査員】

さっき写真で見たんですけど、避難路が土とかでボロ
ボロだったんですけど、そういうのは補修したり、高齢
者のために手すりをつけたりはしないんですか。

【工業】

大きい入り口はふたつあるんですけども、そこには手
すりがついています。

キッズ土佐山

～ 防災意識を高めよう～

【土佐山】

僕たちは、土佐山小学校の6年生のチーム、キッズ土佐山です。よろしくお願いします。

僕たちのお父さんは、高知市消防団土佐山分団に所属しています。お母さんは女性防火クラブで活動しています。そこで僕たちにも「子ども消防クラブ」のような活動ができないかと考えました。その第一歩として、この殺風景な消防屯所のシャッターに絵を書こうと思いました。市内の消防分団には絵を書いているシャッターがいくつかあります。明るくてきれいでにぎやかで楽しい絵を見て、お父さん達が火事の現場や訓練から帰ってきてホッとして欲しい、地域の人たちに防災意識を高めてほしい。そんな想いを込めて絵を書きたいです。絵が完成してからの僕たちが想像するのはこんな感じです。

この子どもたちの絵は癒されるね。今日の訓練も頑張らな！

この絵は地元の子どもらが考えたらしいね。子どもらがこんなにがんばりゆう。私らにも何かできんろうか。

村のおばあちゃんは火災報知機をつけたらうかね。一回見に行ってみようか。

南海地震が来たときのことを考えようかね。どこに逃げるか近所の人と考えよらんといかんね。

非常食も準備しておくよう呼びかけよう。

というように考えてほしいと思います。絵のデザインは、土佐山小学校のみんなから募集してその中から選びたいと思います。

土佐山小学校の子どもたちや消防分団の皆さん、地域の方々に協力してもらい絵を書いていきたいです。これをきっかけにキッズ土佐山に興味を持つ人達が増えて、お父さん、お母さんの活動と一緒に参加できるようになればいいなと思っています。そして、より一層、地域の人達との関わりを深めていきたいです。これでキッズ土佐山の発表を終わります。



【片岡審査員】

7月はこういった活動ですか。

【土佐山】

絵のデザインを土佐山小学校のみんなから募集するための時間です。チラシづくり。

【小林審査員】

テーマが「防災意識を高めよう」になっているんですが、「きれい」とか「楽しい」とかそういうことで、防災意識が高まるということはあまり関係性がないのでは。

【土佐山】

会話の中に火災報知機や南海大地震が来たときにどこに逃げるか、非常食とかが入っていたので。

【藤村審査員】

シャッターの絵を見ただけでは、防災意識というのは高まらないと思います。それ以外に何かチラシを配布するとか考えないんですか。



【土佐山】

今から考えます。

【戸田審査員】

「シャッターの絵をみんなに見てもらえるように」と言っていたんですが、建物自体は土佐山の人たちみんなが見れる場所にあるんですか。

【土佐山】

はい、土佐山の中で一番人が通ると思う場所です。

【井上審査員】

10月にする絵のペイントは、1か月ではなかなかできないと思うんですけども、その絵のペイントは地元の人たちと一緒にするんですか。

【土佐山】

はい。

【細川】

絵を描いたことによって建物がある商店街とかの印象が変わると思うんですよ。絵を描くことによって印象が変わったら、ない方が良かったということも出るかもしれない。大事なことは、空間を壊さないためにも地域の人の希望とか色んなものがあると思うんですけども、

それが皆さんの中から選抜をするというのはそれだけの観点では僕はダメだと思うんですよ。もっと地域の人からの意見というものがあっていいと思いますが。

【土佐山】

まだ考えてないです。

【細川審査員】

もっと地域の人を取り入れた方が僕は良いと思います。

【池上審査員】

シャッターに絵を書くときは、地域の人とキッズ土佐山の方が書くとおっしゃっていましたが、キッズ土佐山と地域の方の中にシャッターに絵を書いたことがある人はいらっしゃいますか。

【土佐山】

絵に詳しい人は多分います。

【池上審査員】

シャッターに絵を書くという経験がなかったら、初めてだったら難しいと思うんですけども、そのあたりはどういった考えですか。

【土佐山】

がんばります。



高知市立介良中学校生徒会

～介良の史跡を知ってもらおうプロジェクト～

【介良中】

今から、介良中学校生徒会が、「介良の史跡を知ってもらおうプロジェクト」のプレゼンテーションを行います。

私たちの住む介良地区は高知市の東の端にあります。今でも学校の周囲にはたくさんの水田やイチゴのハウスなどが広がっています。これは介良中のシンボル、ベリー君です。自然が豊かで、のどかな介良地区が私たちは大好きです。

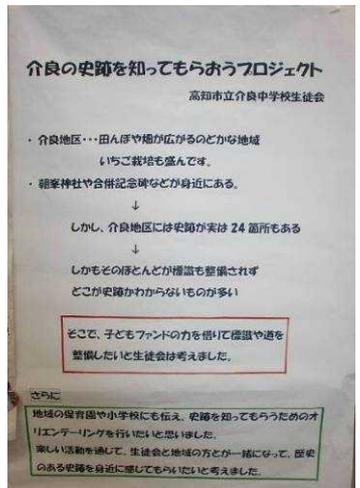
そして、介良地区には古い史跡である朝峯神社があります。古くから地域の人々の心のよりどころとなっている神社で、子どもの遊び場にもなるし、秋祭りや夏祭りには多くの人が集まります。また、昭和 47 年に介良村から高知市に合併したことを記念して建てられた記念碑が身近にあります。

しかし、最近私たちが知ったことは、介良地区には 24 ヶ所の史跡があることです。この中には、そういえば見たことがあるかもしれないと思うものもあれば、全く私たちが見たことも聞いたこともない史跡がほとんどでした。

しかし、歴史ある史跡の多くの状態は、このような状態です。これではどこが史跡が分かりません。そこでこどもファンドの力を借りて史跡の標識や道の整備をしたいと、介良中生徒会は考えました。せっかくの介良地区の歴史的な財産を自分たちも見たいし、広く介良の地域の人にも知ってもらいたいからです。

しかし、標識を付けて道を整備するだけでは、史跡のことを介良の地元の人たちには知ってもらえません。そこで、整備した道を通して、史跡めぐりのオリエンテーリングを地域の方と生徒会でやりたいと思いました。

楽しい活動を通じて、自分たちも地域の人と一緒に、歴史のある史跡を身近に感じてもらい、大事にしてもらいたいと思ったからです。そして、いつか自分が大人になったときに、自分の子どもと一緒に史跡めぐりをしてみたいからです。以上で介良中学校のプレゼンテーションを終わります。



【小林審査員】

介良の地元とあったんですが、介良中には潮見台小学校の人も来ているので、潮見台小学校の人も入っての計画ですか。

【介良中】

はい。介良の史跡には、介良地区と潮見台の裏の山にも史跡が 2 つほどあるので、両地域の方々と一緒にオリエンテーリングで歩けるように思っています。

【戸田審査員】

介良の地域の史跡は 24 か所あると聞いたんですけども、この 7 月から 2 月までの活動内容には、その PR するという事は全くないのですが、そこはどうしますか。

【介良中】

PRという方法の中に、ポスターの配置とかあると思うんですけども、その活動を設置作業と同時進行で行いたいと思っています。

【池上審査員】

看板というのは手作りで作るという予定ですか。

【介良中】

看板は、業者に頼む予定です。

【片岡審査員】

7月にどこの史跡を整備するかを検討するということですが、24か所すべてではないのですか。

【介良中】

24か所すべてこの1ヶ月で行うというわけにはいかないんで、24か所中の急ぐところで10か所ほどを最初に活動として選んで、残りの14か所などは次回の活動でもっと深めていけたらと考えています。



【井上審査員】

看板づくりは、業者に頼むということですが、自分たちでは、少しでも看板づくりのお手伝いとかしないんですか。

【介良中】

そうですね。看板といっても、史跡の名前とちょっとした紹介などを僕ら生徒会でデザインを考えて、それを提出したうえで、業者に製作してもらいたいと思います。

【池上審査員】

作業中のお茶のことですけども、13人いらっしゃるんですけども、13人すべてが業者の方なのですか。

【介良中】

ここに来ている生徒会以外に7人生徒会がいて、あと2人先生方の協力も得て、合計で13人ということです。

【池上審査員】

ということは、看板は業者の方に作ってもらって、設置は自分たちでするんですか。

【介良中】

設置まで業者に頼めるかどうか分からないんですが、自分たちも出来るだけ協力できたらな、と思っています。

【戸田審査員】

8月、9月の設置作業というのがあるんですが、設置作業というのは看板の設置とか道の整備も含まれているのですか。

【介良中】

はい。そうですね。史跡の看板が8月、9月までにでき上がるという予想なので、看板の設置と道の舗装と、さっき言いましたポスターの配布も同時進行で行っていきます。その三つです。



高知市立横浜中学校生徒会「横中ボランティアの会」

～笑顔あふれるまちづくり！！「花いっぱい・クリーンアップ」大作戦！～

【横浜中】

こんにちは「横中ボランティアの会」です。団体メンバーは350名以上。横浜中学校生徒会として全校生徒に呼びかけ、保護者や先生、地域の方と協力しながら活動します。

僕たちの活動テーマは「笑顔あふれるまちづくり！！花いっぱい・クリーンアップ大作戦！」です。

そのために僕たちは三つの活動目標を設定しました。一つ目は、「自分たちのまちをきれいにする」。まちがきれいだとゴミを落とさないように気をつけたり、地域をきれいにしようという意識が高まります。

二つ目は、「中学生の力で地域を活気づける」。僕たちには可能性とパワーがあると信じています。小学校からのボランティアスピリットでまちづくりの幅を広げます。

三つ目は、「大人になってもまちづくりに参加する」。生徒会を中心とした活動により、僕たちが大人になっても自分たちのまちをより良くしようという意識が継続できます。

横中ボランティアは年間を通じた四つの活動からなっています。

クリーンアップし、私たちのまちをきれいにします。

花いっばいにし、僕たちのまちを心とむものにします。

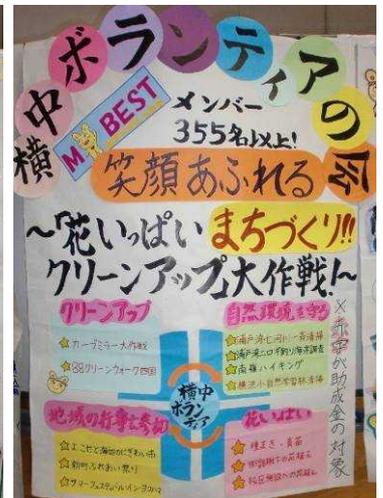
地域の自然を、僕たちのまちの海や山を守ります。

地域の行事に参加し、僕たちのまちを活気づけます。

それでは、僕たちの活動をご覧ください。7月「浦戸湾七河川一斉清掃」の様子です。8月、「88クリーンウォーク」の様子です。この取り組みは、四国四県で朝6時から同時刻に行われます。9月、体育大会が終わり冬の花、ピオラの種まきをします。10月、カーブミラー大作戦の様子です。校区には見通しの悪いところが多く、大切な活動となっています。11月、自然学習林清掃活動の様子です。校区の小学校の活動にも参加します。そして、花いっばい大作戦の様子です。この活動には校区の町内会も参加します。12月、校区に配布したプランターの植替えの様子です。保育園や小学校、郵便局など計14施設に行きます。1月、花いっばいの卒業式になるよう、街路樹元に植えた花を補充します。2月、来年度に向け、夏の花のマリーゴールドの種まきをします。

横中ボランティアは昨年度は590名になりました。

僕たち、横中ボランティアの会はこれからも「my best」の精神でみんなの心をつなぎ、笑顔あふれるまちづくりをしていきたいと思えます。審査員の皆さま、僕たちの活動に賛同していただけるよう、よろしく願いいたします。



【細川審査員】

皆さんの記入している用紙を見て思ったのですが、「賞を受賞するとともに地域からあてにされ、横浜中学校生徒会の力は、地域にとって無くてはならない存在になっています」。どれだけ皆さんが地域に力を注いできたかは、地域の評価だと思います。地域がどれだけ皆さんを必要としてくれるか、という地域の評価を自分で書いていらっしやいます。地域に対して「自分たちがやらせていただいている」とか「地域とともにやらせていただく」という発想は皆さんの中にありますか？

【横浜中】

はい。

【片岡審査員】

花を植えていくということですが、まちに花を植えたりするのは雑草とかはどのようにしているのですか。



【横浜中】

事前に校内で委員会やボランティアでメンバーを募って、街路樹元の草を引いています。

【新藤審査員】

これまでもやってきた活動がベースになっていると思うんですが、今回助成金を申請されてますよね。これまでの活動の種を買ったりだとか、そういう資金とかはどのようにしてきたのでしょうか

【横浜中】

これは校長先生がいるんで。

【司会】

そしたら、大人のサポーターの方、一言ご回答いただけたらと思います。

【横浜中(サポーター)】

生徒会費を集めておりまして、その中で対応しておりました。だけど、今回の活動費につきましては、もっと広くということを考えておりますので、ぜひ助成をお願いします。



【戸田審査員】

これまで行ってきたボランティア活動というのは学校の行事ですか。それともボランティアという形でできる人という感じですか。

【横浜中】

ボランティアという形で毎月1回のペースで行っています。

【杉村審査員】

活動の内容のところ、何名とか人数が書いてあるんですけども、それは地域の人とかも入ってますか。それとも地域の人たちが入ってきてもいいように、「約」とつけてしているんですか。



【横浜中】

学校内で参加された人数です。

【片岡審査員】

支出の欄の、エアコンはどのような目的で使うのですか。

【横浜中】

冬の花や夏の花を作るときの適度な温度を作り出すためにエアコンなどを使います。

太平洋学園コミュニティー協力隊

～学校と町内の皆さんとの交流を図り、より安心して楽しく暮らせるまち

“ハッピーコミュニティー”づくりを推進するボランティアプロジェクト～

【太平洋】

皆さんこんにちは。私たちは太平洋学園高等学校1年生です。私たち太平洋学園コミュニティー協力隊は、学校と町内の皆さんとの交流を図り、安心して楽しく暮らせるまち「ハッピーコミュニティーづくり」を推進するボランティアプロジェクトです。

まずはじめに、なぜこのプロジェクトに取り組もうとしたかと言いますと、私たちの学校は高知駅近くの住宅地の中にありますが、この春以来周辺の皆さんから学校に、生徒の苦情が寄せられるのも珍しくありませんでした。

そこで、学校のボランティアサークルの中で話し合っ、近隣に迷惑をかけるのではなく、逆に喜んでもらうにはどうすればいいか、と考えたことがきっかけです。

次にこれまでの取り組みについて説明します。まず最初に全校生徒にアンケートをとりました。その結果、「近所の皆さんにあいさつをする」「ゴミを拾う」「花を植える」「お年寄りのお手伝いをする」など様々なアイデアが出ました。そして、町内会長さんにもお会いしました。その中で、地域の防災について「高齢者だけでは、防災組織を作ろうにもできないので不安だ」というような意見も出ました。そこで、これらをもとに検討を重ね、応募しました。

この構想は3年計画で取り組みます。私たちが卒業する頃には、学校を含むこの地区を安心して楽しく暮らせるまちにしたいと考えています。1年目である今年はその基礎づくりが主な活動となります。

では、このプロジェクトの4つの柱と活動目標を説明します。

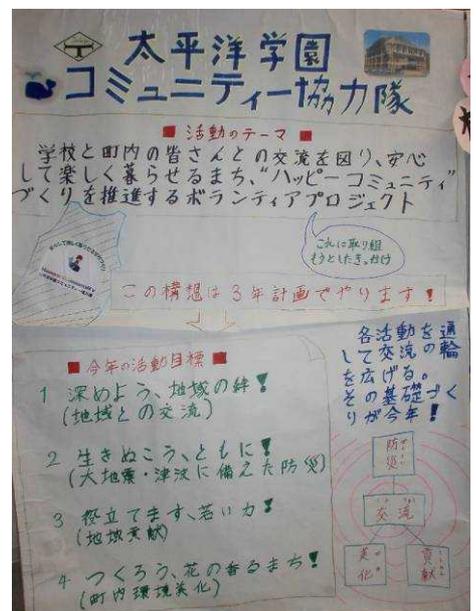
一つ目の「深めよう地域の絆」では、学校周辺でのあいさつ運動や子どもたちや高齢者とのふれあいなど、地域との交流を図ります。

二つ目の「生き抜こう、共に」では、いざという時にお年寄りや近くの保育園の子どもたちの避難を助けられるよう、一緒に避難訓練をします。また、自主防災組織の立ち上げを手伝います。

三つ目の「役立てます、若い力」では、各家庭、特に高齢者の要望に答え、庭の草引き、電球の交換などのお手伝いに伺います。

四つ目の「つくろう、花の香るまち」では、定期的に地区のごみ拾い、清掃活動を行います。また、季節ごとに香りを楽しめる草花を植え、花の香るまちづくりを計画します。

これらの防災・貢献・美化の各活動を通して、地域の皆さんとの交流の輪を広げたいと思います。さらに、これらの活動を通して、活動する私たち自身も成長していきたいと思っています。最後まで熱心にお聞きいただきありがとうございました。



【森田審査員】

このオリジナルベストのシンボルキャラクターの作成は、もうできていますか。

【太平洋】

はい。今のところできております。こちらに書いてある、ちょっと小さいのですが、これがシンボルキャラクターです。

【片岡審査員】

地域との交流活動で、ゲーム機等の現代の遊びを中高年の皆さんに教えるってあるんですが、それはどこでやるんですか。

【太平洋】

学校の体育館でやるというように、今のところ考えております。

【池上審査員】

一つ目の「地域との交流活動」のところ、地域の方が学校に来ていただけるという段取りというのはできていますか。



【太平洋】

今のところ、その段取りについては決まっていません。

【池上審査員】

何人くらい来るという予定というのがありますか。

【太平洋】

今のところ、そこも決まっていません。

【細川審査員】

地域の方から苦情というのがありました。苦情がくるから仲良くなってやろう、ということなのか。苦情がくるその内容とかそこに対しての対策を盛り込む、ということが先だと思んですが、その辺この活動にはできていますか。

【太平洋】

ゴミ拾いなどの活動を効率的に行うために、まずは地域の皆さんにこの団体の活動のことを知ってもらってという基礎づくりを今年行いたいと思います。

【新藤審査員】

こんなたくさんのプログラムを考えているということですが、皆さん授業もあるのでなかなか忙しいと思います。どの時間に、例えば週に何回とかどれぐらいの時間を使ってやるんですか。

【太平洋】

毎週水曜日のロングホームルームの時間を活用して基本的には週に1時間から2時間行います。さらに、学校が定時制なので1時頃に終わるんですけども、その後時間がある人はさらに活動をしたと思います。

【新藤審査員】

それは授業の中ということなんですか。

【太平洋】

毎週水曜日のロングホームルームの中でやる場合は、授業と同じようなことになります。1時以降の学校終了後の活動については、ボランティア活動として扱っています。



【新藤審査員】

どちらの時間の方が長くなりそうですか。

【太平洋】

ボランティア活動は1時から5時まで行っているの、多分そっちの方が長くなると思います。

【細川審査員】

今、ボランティア活動の方が長いというのがありましたが、それでは僕はあまり意味がないと思います。当然苦情に関してそれを行っている原因の本人がいるわけであって、皆さんがそうだというわけではないと思いますが、その辺の割合が、活動をするって言う人の割合が長くなると、そうじゃない他人に迷惑をかけてるかも知れない人の対策に直接ならないと思って。ゴミ拾いだったらゴミ拾いの活動が、学校全体として広がる。そして学校全体として地域の人への貢献になるという活動が僕は大事だと思うので、その辺の割合が僕はちょっと違うかな、と思うんですけども。



【太平洋】

これから増やせるなら増やしていきたいと思います。けど、それは僕らじゃ決められないので。それは、学校側に相談して決めようと思います。



匠カフェ実行委員会

～ 匠カフェ 魅力的な社会人と生き方について語ろう！～

【匠カフェ】

日頃接点の少ない魅力的な職業の方を匠と呼びます。「匠カフェ」とは、匠、つまり魅力的な職業人と一緒に授業や講演の枠を超えて、お互いにもっと近い距離で「高知で働く」ということ「高知のためにできること」を真剣に考える場です。「カフェ」とついていますが、飲食店とは関係がありません。ですが、「カフェ」はリラックスした雰囲気でお話をしようという思いと、コーヒーを飲んだときのように、ハッと目が冴えて新しいアイデアが生まれるよう、願いを込めて名付けました。

私たちは、去年夏に「サマーフェスタ」という5日間集中型の職業人を招いた講座を行いました。参加した高校生からとても好評で、充実した時間が過ごせました。今年から時期は夏に限定せずに、「匠カフェ」と題して、高校生が将来役立つような職業に就いている方や普段会うことの少ない方を講師として招きたいと思っています。まちを活性化するために、大人と高校生が仕事を通してまちの未来を考え、地域のためにできることを実施していきます。

去年、わたしたちが行った、「サマーフェスタ」について何人か紹介させていただきます。

シーブルーフ近藤さん。サンゴ礁の種類やサンゴを守るための活動など、たくさん知ることができました。

竹林寺、内田さん。僧侶の生活や人生のアドバイスなど、留学経験の中で世界の中から見る日本について話してくれました。

東宝シネマズ高知、伊勢さん。普段知ることのない映画上映の裏について知ることができました。次は牧野植物園の小川さん、丸福農園の楠瀬さん。この講演では世界中の庭園を見ることができて、植物と人との関わりについて知ることができました。リラックスした中で飲んだハーブティーがとてもおいしかったです。建築家、川西さん。Tシャツアートのこと、中村駅の改修のこと、自分自信の将来を考えることができました。看護師、藤井さん。JAICAの医療活動で滞在したボツワナでの現状や子どもたちの話をしてくださいました。

皆さんはどんな方の講座を聞きたいと思いましたか。このような魅力的な方々と出会うことは、決して学校でできることではありません。では、実際に匠カフェの流れにつきましては、あちらの図をご覧ください。

(時間切れで最後の一言)ワーストで有名なこの高知県に、みんなで協力して新しい将来を育てるチャンスを作りたいと思います。ぜひよろしくお願いします。



【細川審査員】

何か新しいことを知りたい、調べたいということになると、ネットや学校の進路室でも十分にわかる環境がある中で、皆さんが予算を取って、その人たちを呼んで、それで何をしたいのか、今後にどう繋げたいのでしょうか。どういうふうに今後生かしていきたいのでしょうか。

【匠カフェ】

高校生や大学生など、今後の進路を考える人たちを招いて、学校内だけでなく、地域全体でこれらの職業のことを考える時間を作っていきたいと思います。

【杉村審査員】

この中で、地域のためにできることを活動として実行するというのもあると思うんですけども、その地域のためにというのではなくて、地域の人々の希望を聞いてそのためにできることを考えていくのか、それとも、自分たちで「こういうことがあったらいいな」ということがあるのか、それはどうですか。



【匠カフェ】

基本的に、高校生が出して行って、地域の人にも声を聞いていくつもりです。聞いていきます。

【片岡審査員】

自己資金というのはどういうものでしょうか。

【匠カフェ】

私たちは、この活動から得る助成金以外にも周りの地域の方々の商店街のお店などから広告をいただいて、それを資金として活動しています。

【片岡審査員】

講師選定・テーマ決定ということですが、高校生が進路決定するにあたって、ひとりひとりが別の仕事、人生を歩むのですから、講師というのはどのような選定をするのでしょうか。

【匠カフェ】

私たち高校生もそうなんですけども、皆さんが知っている職業だけではない色々な職業の方々を呼びたいという意見を聞いてそれを私たちが実行していきたいと思います。

【細川審査員】

皆さんが、助成を希望されている金額が、皆さん思ったとおり助成されなかったときに、謝礼がお支払いできないということになれば、皆さん、この企画はないということになるわけですか。

【匠カフェ】

やっていきたいと思いますが、その場合は、地域の人たちに協賛してもらおうという形になります。

【細川審査員】

この助成という形をとらなくてもやれるという手段はあるんですね。

【匠カフェ】

ありますが、やはり、色々な講師に、県外からも来て欲しいので、この20万円を希望しました。



【藤村審査員】

県外から来るということは、高知の匠を知ることが高知を好きになると書いてあるのですが、そこは矛盾してないですか。

【匠カフェ】

基本的に、高知の人を招きたいと思いますが、高知にいない人、例えば外交官、入国審査官のような人たち、高校生が出会わないような人達を招くことです。

【池上審査員】

講師の交通費なんですが、まだ講師も決まってない中で、なぜひとりの交通費が2万8,940円という細かい数字が出ているんですか。

【匠カフェ】

それは昨年サマーフェスタという形で、講師の方を呼んだので。それをもとに交通費を計算しました。

【池上審査員】

交通費というのは来る場所によって違うと思うんですが、増えてしまったりしたときは、オーバーした予算はどこからカバーしますか。

【匠カフェ】

そうですね、協賛金からも集めたいと思います。

【細川審査員】

高知にいない人を呼ぶと、色んな所から呼びたいというのと、地域との関わりとは何ですか。

【匠カフェ】

この高知県をさらに盛り上げていくために、県外からの客観的視点を色々話し合っていきたいと思っています。また、最後に、細川審査員も、もしよければこの活動に参加していただきたいと思っています。



地域記憶プロジェクト実行委員会

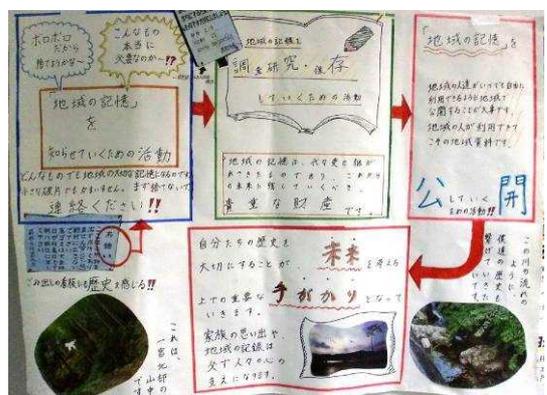
～地域の記憶を地域で守ろう プロジェクト～

【地域記憶】

「地域の記憶を地域で守ろうプロジェクト」。高知東高校がある高知市一宮地区ではコミュニティの人達の間で、一宮地区の歴史を調べようという機運が高まりました。地域の人たちは歴史文化部会を立ち上げたのが平成 23 年 4 月です。東高校ではもともと歴史を調べる活動をしていた関係で、地区の人たちから「一緒にやりませんか」とお誘いがありました。そこで、東高校では昨年は長宗我部地検帳から一宮の地名を調べる研究をしました。昨年 11 月、コミュニティは一宮地区歴史文化発掘プロジェクトを立ち上げました。その後、コミュニティの人からこうちこどもファンドの話聞いた僕たちは、24 年 4 月に「地域記憶プロジェクト実行委員会」を立ち上げ、「地域の記憶を地域で守ろう」を実行していくことになりました。地域の歴史を支えるものという、皆さんはすごく古いものとか大変貴重なものばかり思い浮かべるんじゃないでしょうか。僕たちが考える地域の歴史を支えるものというのは、そういうものとは少し違います。昨年の調査でも昭和 31 年にまとめられた一宮地区の地図を長宗我部地検帳の情報と重ねることで新しい発見があったり、地域の人のお話で江戸時代に描き残された話の重要な裏付けになったりしました。

地域の人には、どうということのないこんな看板でも、僕たちにとってはこんな現在ではあまり使わない文字を使っているというだけで、希少な看板になったりします。こういった話を通して、思いがけないものが地域の記憶になることを広く知らせていきます。捨てる前に連絡を。この

ことをコミュニティを通じて地域に広くアピールしていきます。次に寄せられた情報をもとに調査・研究を行います。専門家のアドバイスも受けながら、一点ごとにカードを取っていきます。そして、その調査をもとに、保存用の中性紙の封筒や段ボールに保管していきます。写真などはスキャナーに取り込んでいくように、また劣化の激しいものは専門家に相談するなど、適切な処理をします。そして、最後はそれらの資料を公開していくための活動です。パソコンを使って目録を作成したり、画像などはCD-ROMに焼付け、誰でも利用できるように環境を整えます。また、展示会や報告会を企画します。これらの活動は必ず地域の未来を大切にしていくことに繋がります。また、東北の被災地を見ても自分たちの身近な歴史は人々を勇気づけたり心の支えになっていることは明らかです。地域と専門家とその両方を巻き込んだこの活動を通して、僕たちは必ず歴史から見据えた一宮の未来を描いていけると思います。ご静聴ありがとうございました。



【杉村審査員】

コンピューターや色々なところで見れるとありましたが、お年寄りとかコンピューターの使い方が分からない人もいると思うので、本などお年寄りにも気軽に親しめるようなことは考えていませんか。

【地域記録】

目録とかを作って地域の人たちに配ろうとは考えています。

【森田審査員】

地域の記憶を保存するというのはそれだけ地域の昔の歴史を伝えたいというのであれば、さっきの看板であったりとか、その看板の状態を腐らないように維持するとか、そういう維持費のほうに力を入れたほうがいいのではないのでしょうか。

【地域記録】

資料館の人に来てもらって、保存の方法とかを聞いて予算の内で行っていきたくて考えています。

【細川審査員】

みなさんは、17歳で、ひょっとしたら来年は高知にいない、進学するという人もいるやろうし、集めた書類・文書・写真等もいずれ容量いっぱいかかると思います。その保管自体にもお金がかかることだと思うんですが、今後それを含めて自分たちが保管をどうするのか、今後自分たちの下の世代にそれをどうやって伝えていくのか、今年以降を含めてのプランというのはどうなっていますか。

【地域記録】

東高校は、3年前からそういう活動をしていて、このまま続いていくと思いますし、地域のコミュニティとかと連携して、調査したものとか保存したものを管理していきたいなと考えています。

【池上審査員】

保存したものの管理というのは学校でしていくんですよね。



【地域記録】

最初のうちはそのように考えています。

【池上審査員】

保存していくにあたって、多分費用がかかると思いますが、その費用はこの中に含まれていますか？

【地域記録】

はい、中性紙に挟むとか、封筒に入れて酸化を防ぐという。

【片岡審査員】

専門家による調査は、この資金には入っているんですか。

【地域記録】

はい。

【杉村審査員】

7月のところに、チラシ配布等で呼びかけるというのがあるんですが、そのチラシを配って、色々くと思うんですけども、9月の「継続中」でも展覽ということはあるんでしょうか。

【地域記録】

コミュニティの一室を借りて展示したりして、紹介していきたくて考えています。

【戸田審査員】

2月の報告会と、ミニ展示等の企画、実行というのは、学校でやられるんですか。

【地域記録】

それは、コミュニティか学校かどちらかわかりませんね。

PAPAS

~ Good Bye RAKUGAK (in our city) ~

【PA】

私たちは、丸の内高校生徒会「PAPAS」です。「PAPAS」とは、「パッと明るく、パッと消して、明日はスマイル」という意味です。

私たちの学校は街が近く、通学の際に街で落書きを見かけることがあります。他の場所にも落書きがもっとあるのではないかと、街から落書きを無くすことを目標にしました。また、落書きが街にあると、それを見た人が嫌な気持ちになるのではないかと考えたからです。そこで、街から落書きを無くすことで、街に住んでいる人たちが嫌な思いをすることなく生活することができると思いました。街の落書きを探してみ、落書きの多さに改めて驚き、落書きを消したいという思いが更に高まりました。



お手元にある地図を見てください。事前に落書きのある場所を見て、写真に撮ってきました。スクリーンを見てください。

この落書きが地図上の駐輪場の壁にかかれたものです。この落書きがの壁と自販機にかかれたものです。この落書きがの店のシャッターにかかれた落書きです。



街の人たちに、落書きについてどう思っているか聞いてみると、「自分たちの育ったまちが落書きで汚れているのは悲しい」「落書きが目に入ると、無ければきれいなのに、と思う」という意見が多かったです。

私たちは落書きを消すために、高知で商品化された「ケシマス」という落書き落とし液を使用する予定です。これは、環境に優しい生分解性の液を主成分としたもので、ラッカープレーやマジックなどの落書きを大変よく落とします。また、高知で作られたものなので、地産地消にもつながるのではないのでしょうか。

ポスターを製作するなど、落書きを防止する活動も考えています。活動後にはみんなが笑顔で明るく暮らせるきれいなまちにしたいです。

これで発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。



【片岡審査員】

7月中に、落書き場所の確認とありますが、落書きの場所は調べているのでいいのでは。

【PA】

この地図に書いた落書きの場所はおおまかにしか見てないので、もっと裏口とかそういうもっと細かいところも見て確認していきたいと思っています。

【杉村審査員】

今回は、地域で色々な落書きがあって、そういう落書きを消すということになっているけど、もっとPRしたら、この地域だけでなくもっと広く落書きを消すということができると思うんですけども、そういうPRというのはありますか。

【PA】

ポスター製作をして、もっと広い範囲で活動を広げようとしています。

【細川審査員】

この通り僕も知っているんですけども、年季の入った通りで、落書きがないシャッターですら、だいぶ色が変わっている所ですよ。そこで、この段階で落書きを消してしますと、前の汚れも消してしまってかえって消し跡が残ってしまうとか、そういうことにも多分なると思うんですけども、これはもう落書きを消すというだけの目的なんですか。

【PA】

そうです。今のところは。

【細川審査員】

きれいになったシャッターに、もう1回そしたらきれいになったから書いてやろうと書かれた時に、対策ですよ、それについて具体的な対策はまだ、改善点を検討するとありますけども、そっちはどうするんですか。結構大切な要素ですよ。

【PA】

それは今のところまだ考えていませんが、検討する際にしっかり考えたいと思います。ありがとうございます。

【井上審査員】

その「PAPAS」さんのチームは、そのチームだけでシャッターの落書き消しをするんですか。それとも地元の人たちと手伝って落書きを消すんですか。

【PA】

今のところ、9月初旬に人員募集となっているんですけども、今決まっているのは学校内でボランティア部というのがありますが、その人たちを中心に呼びかけをして、活動していきたいと思っています。

【戸田審査員】

落書きを消すのは、10月の「実行」というところでもいいんですか。

【PA】

はい。



一ツ橋「ほほえみキッズ」

～“おもしろそうをやってみよう”チャレンジ精神！「ほほえみがえし」プロジェクト～



【一ツ橋】

「おもしろそうをやってみようチャレンジ精神！ ほほえみがえしプロジェクト」一ツ橋ほほえみキッズ。一ツ橋小学校6年篠原吉乃、6年竹崎明日歩。一ツ橋小学校は、高知城の真北、久万川のほとりにあります。周りには城北中学校や愛宕中学校などがあります。「ほほえみキッズ」は一ツ橋小学校の生徒を中心に学校の先生やPTAの皆さん、青少年育成協議会や町内会などの地域の方を中心に活動をしています。「ほほえみキッズ」の活動のテーマは、「おもしろそうをやってみよう ほほえみがえしプロジェクト」です。

「ほほえみキッズ」の活動目標。学校の授業では学ぶことのできない3つの活動と体験をします。

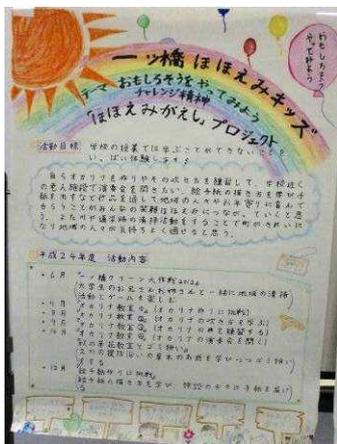
1、オカリナに挑戦。学校の近くに住んでいる安岡さんの吹くオカリナ演奏を聴いて、良い音色に感動しました。そこで、私たちはオカリナ作りに挑戦してみたいと思いました。オカリナを吹けるように教えていただき、練習して学校近くの老人施設で演奏会を開きたいです。

2、久万川の堤防に沿って、咲く花や、木の名前を学びながら空き缶などのゴミ拾いもします。

3、絵手紙の書き方を学び、オカリナの演奏会でお話をした施設の方に絵手紙を出します。

結びとして。作品を通して、地域の人々やお年寄りに喜んでもらうとか、みんなの笑顔、ほほえみに繋がっていくと思います。

私たちのささやかな活動ですが、みんなで協力しあい、ほほえみをモットーにがんばります。ご支援よろしくお願ひします。ご静聴ありがとうございました。



【小林審査員】

7月にオカリナづくりに挑戦、というのは初めての人だけですか。

【一ツ橋】

大体初めての人ばかりです。

【小林審査員】

吹き方を教えていただいて、9月に練習するとありますが、もし、初めてなのでうまくオカリナが作れなかった場合は、8月、9月に参加できないんでしょうか。

【一ツ橋】

そんなことはないと思います。

【森田審査員】

オカリナを作って、オカリナの吹き方を教えていただいて、オカリナ教室でオカリナを練習して老人施設で演奏会を開くと、教えてもらって演奏会を開くまでの期間が1月、2月しかない。この間は練習量としては少ないんじゃないかと。

【一ツ橋】

吹けるように頑張って練習します。

【杉村審査員】

資料の中に、自由記入コーナーで色々やりたいこととか書いてるんですけども、その中で今回はオカリナと絵手紙とゴミ拾いとかをするとありますが、今後も出た意見などをやっていくんですか。それとも今回で終わりとか、そういうのはどうですか。

【一ツ橋】

これからも続けていきます。

【井上審査員】

11月は、何もすることがないとなっているようですが、11月はどうするんですか。

【一ツ橋】

11月は絵手紙です。

【細川審査員】

最大のテーマがオカリナを作ることだと思いますし、予算もそれに結構使われてると思います。さっき言われたようにオカリナの手配が人によってできなかつたり、うまく作れなかった場合に、最大のテーマであるオカリナを作って披露する、ということに対して、その対策とは。

【一ツ橋】

そういうところはあまり決まっていません。

【片岡審査員】

私の町内会とかでも、お皿を作ってみませんか、ということがあったんですが、このオカリナづくりもそんな感じではないんでしょうか。オカリナづくりを地域でするということはしないんでしょうか。

【一ツ橋】

すると思います。

【司会】

さっきの質問は、オカリナを作るときに地域の人に教えてもらうのか、地域のオカリナを作っている別のところにみんなが参加するのか。単純に自分たちのグループでオカリナを作るときに誰かに教えてもらう人がいるのか、そういうところはどうですか。

【一ツ橋】

教えてもらいます。



まきえキッズ

～あいさつで、あかるくたのしい、まきえだい！～

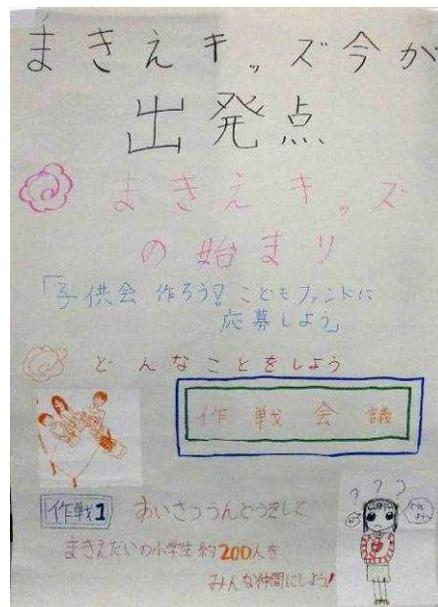
【まきえ】

わたしたちは蒔絵台子ども会「まきえキッズ」です。私たちのまちは、町内会ができてまだ7年目というまだ新しいまちです。5月に町内会長さんから、「子ども会を作ろう。こどもファンドに応募してみんなで蒔絵台を盛り上げよう」と誘われたのがきっかけです。大急ぎで集まって、このファンドに応募することになりました。そこで、私たちは「どんなことをしようか」「どんなことができるかな」と作戦会議をして、目標とやってみたいことを決めました。まず、目標は「あいさつで明るく楽しい蒔絵台をつくろう」に決めました。蒔絵台には子どもがたくさんいて、小学生だけでも約200人います。

そこで、作戦 あいさつ運動をして、蒔絵台の小学生を「まきえキッズ」の仲間にしよう、と決めました。最初は私たちがあいさつ隊としてあいさつ運動を始めるつもりですが、友達を誘ったり、チラシを配ったりしてどんどんあいさつ隊を増やしていきたいと思います。

そして、作戦 みんなで蒔絵台を掃除して、きれいなまちにしよう、と決めました。蒔絵台には公園が4つあり、きれいな花や大きな木がたくさんあります。けれども、お菓子の袋やペットボトルなどのゴミが落ちていることがあってとても悲しい気持ちになります。大人の助けがなくてもゴミ拾いぐらいはできるので、みんなで協力してまちをきれいにしたいなと思っています。

そして、作戦 災害が起きてもみんなで協力できるようになろう、と決めました。災害はいつ起こるか分からないので、私たちにできることをやってみようということになりました。ガスや電気が止まるかもしれないので、焚き出しに使えるように、新聞紙で薪を作る体験をして、その薪を使って実際に炊き出しの体験もやってみたいと思います。そして、作った料理を蒔絵台に住んでいる大人の人たちに食べてもらって、大人の人達とも仲良くなれるきっかけにしたいと思っています。それと寝袋を使って寝る体験を集会所でやってみたいと思います。始めに言ったように、「まきえキッズ」はこれから活動を始めます。どんどん仲間を増やして、蒔絵台のために私たちができることをどんどんやっていって、蒔絵台を盛り上げようと思います。私たちの活動をどうか応援してください。どうぞよろしくをお願いします。



【小林審査員】

あいさつ運動で約 200 人の小学生を仲間にすると思いますが、蒔絵台の小学生は全校生徒で何人ぐらいですか。

【まきえ】

小学校の全校生徒は約 500 人ぐらいです。

【小林審査員】

500 人の中の 200 人というのは、少し難しいと思うんですが、どうですか。

【まきえ】

その中の一部の人を誘ってやろうと思います。

【細川審査員】

500 人の中で対象は 200 人です。交代で全学年というようにはならない？

【まきえ】

まだ考えていません。

【池上審査員】

あいさつ運動ですが、例えば 12 月だったら、12 月の何日にどこで何をするのかという計画は決まっていますか。

【まきえ】

あいさつ運動のある月の第二か第三水曜の学校の登校の途中の道でやることになっています。

【池上審査員】

ということは月に 1 回ですか。

【まきえ】

そうです。

【井上審査員】

あいさつ運動は学校の人たちと一緒に活動するんですか。

【まきえ】

多分そうなると思います。

【片岡審査員】

カレーや豚汁 70 名分は、薪を自分たちでつくったり、自分でかまどでご飯を炊いたりして、なぜ作ったか、どういう目的で作ったということを、大人たちに言うんですか。

【まきえ】

そうなると思います。

【細川審査員】

活動のテーマが「あいさつで明るく楽しい」。助成される金額のほとんどが防災キャンプに使われる。皆さんが一番重きを置いているのは何なのか。何がしたいのか。当然そうすると、色んなことに予算が使われていると思うんですけども、当然地域の人との協力があればもっと抑えられるところ抑えられると思うし、皆さんがやりたいあいさつの方に、別の企画で使うことができると思うんですけども、それは、もう予算というのは、全部キャンプに使うと。他のことは、テーマにあるあいさつの方は、自分たちで何とかするというそういう解釈でいいんですか。



【まきえ】

それでいいです。

【池上審査員】

防災キャンプですけども、なぜ防災キャンプは夏休み中の8月でなくて、10月に実施するんですか。

【まきえ】

8月は夏休みでどこかに出かける人がいると思うので、10月の方が人がいると思うので、その月にやっています。

【池上審査員】

10月だったら、気温とかも変化すると思うんですけども、キャンプのときが寒かったり暑かったりした場合はどうしますか。



【まきえ】

集会所でやるか延期かになります。

【杉村審査員】

寝袋というのがあるんですが、これはこの機会だけで使うのか、それともこれからもずっと色々なことをしていくのか。それはどうですか。

【まきえ】

これからもずっと使うと思います。

【杉村審査員】

例えば何に使うか決まっていますか。

【まきえ】

あまり決まっていません。

【 再度の質問時間 】

浦戸小学校児童会まちづくりお助けレンジャー

(質問出ず)

大津子ども会連合会「クルック・ソングメイツ」

【小林審査員】

8月のペープサートの学習とあるんですが、それはまだ自分たちのペープサートのことを完全には理解するとかわかっていないということですね。

【回答】

そうです。

【杉村審査員】

去年はいろいろ踊りを披露したと資料には書いてあったんですけど、ペープサートで地域の人たちに見せるのと一緒に、ピアノを贈る時にも一緒にその劇とかも贈ったりしたらいいんじゃないかなと思ったんですけど、そのところはどうか。

【回答】

ビデオとかで。そういうのも贈れたらいいなと思います。

【杉村審査員】

では他にもいろんなことも考えて贈るということでもいいですか。

【回答】

はい。

キッズ土佐山

【小林審査員】

10月にペイントコーティングがあって、それが続くということなんですけど、まあやっぱり天気が変わって雨とかになる時があって、さびたりペイントが少しずつはがれたりしたりする時はどうしますか。

【回答】

上塗りします。

【片岡審査員】

自由記入コーナーで自分たちのお父さんのことを書いているんですが、自分たちだけじゃないのでしょうか。訓練を頑張っていると書いているので、励ましたいといのは、自分たちの家庭の中で出来るんじゃないかと僕は思うんですが。頑張ろうっていう最初の説明の中であったことは、消防団の頑張り方は、自分たちの家庭の中で「どうだったの」とか聞くことは出来るんじゃないかと思いますが。

【回答】

訓練とかは夜の7時からなので、帰ってくるのもかなり遅い。家で今日はどうやった、そういうのも言うこともできない。家で励ますのはできない。

太平洋学園コミュニティー協力隊

【片岡審査員】

ゲーム機等を中高年の人が、例えば中高年の皆さんが自宅に籠もってゲームをずっとやったりしてしまったり、逆に地域の絆が生まれにくいんじゃないかと思うんですが。

【回答】

そこまでは考えてなかったです、すみません。

【森田審査員】

こんなことを聞いてちょっとどうかって感じなんですけど、ゲームって例えばどんなものですか。

【回答】

基本的には誰でもできるトランプなんかのゲームから、かるたを使ったゲームとか。誰でもできるようなものをやりますが、テレビゲームはそれも万人向けのものから、例えばマリオとかをやっているかと思っています。

【森田審査員】

そのゲーム機はどこから出てくるんですか。

【回答】

それも学校内の予算か、僕らが出していきたいと思います。

匠カフェ実行委員会

【細川審査員】

この昨年夏の「サマーフェスタ」という5日間集中型の職業人を招いたことを何回かに分けてやると、5回の分を何回かに分けてやるんですね。それで会場分の予算のところは会場貸し切っているのが2回。その辺どっちなのか、集中されているのか、散らしているのか、どっちなんですかね。どういうスパンでやっていくのか。

【回答】

つまり実施することについてですか。

【細川審査員】

実施をどういう形でどれくらいの頻度何回に分けてやるのか。

【回答】

今のところ、こちらに。

【細川審査員】

会場費2日間ですよ。

【回答】

はい、会場費2日間。

【細川審査員】

手前の5日間集中型のどうのこうのって何です。

【回答】

それは去年の話です。

【細川審査員】

じゃあ散らしているんじゃなくて集中させている。

【回答】

はい、集中させています。また地域の皆さんとかここにいる会場の皆さんが参加された場合、参加されてアンケートでまた実施したいという場合は、また行くという感じになっています。

【片岡審査員】

9月会場確保とありますが、資金を見たところ、会場費 8,770 円と細かく書いてあるんですが、どういふことでしょうか。

【回答】

そちらは去年「サマーフェスタ」を行って、去年の計算から出したものです。

【片岡審査員】

昨年の「サマーフェスタ」と同じ会場で行うということですか。

【回答】

今のところはそのようですけど、また会場が変わるかもしれません。

【池上審査員】

9月に会場を決定し、講師へのお願いが8月になっているんですよ。講師にお願いする時は、たぶん日時と何処でやるかということをおちゃんとっておかないと、向こうも予定とかあると思うんですけど、会場確保を先にしたほうがよくないですか。

【回答】

いえ、講師との交渉もありますので、講師との話を先にしてから会場を決めるという形になります。

【池上審査員】

もしその講師の都合の悪い時しか会場を貸すことできなかった場合は、

【回答】

またそこは別の会場をかまえるような形で。

ほほえみキッズ

【森田審査員】

申請書にオリジナル石鹸を作ろうとか流しそうめんをしたいとか書いてあるんですけど、それは来年やる予定なんですか。

【回答】

空いている1月や2月などにしたいです。

【森田審査員】

じゃあこのオカリナ教室は継続して行うってことですか。

【回答】

はいそうです。

【杉村審査員】

目的の中に、ほほえみを通じ地域の輪と絆を深まるようにということをお目的とするとありますが、この10月に行われる久万川の清掃活動に便乗して花や草の名前を学ぶとありますが、このことについては学校でやるのか、地域の人にいろいろ名前を教えてもらったりするのか、それはどうですか。

【回答】

学校の先生方にも教えてもらおうし、地域の人々にも教えてもらいます。

【小林審査員】

今さっきの質問でオカリナ教室は続けていくと言っていましたが、オカリナ教室は3か月続けてその後はどんな活動をしていくんですか。

【回答】

それは個人で決めてもらいます。

まきえキッズ

【杉村審査員】

最初のほうの質問でもあったかもしれませんが、あいさつ運動っていうのは月に1回かそれとも毎週やるのかとかいうのはどうですか。

【回答】

月に1回やります。

【杉村審査員】

ではその目的の中にあいさつで明るく楽しい蒔絵台、あいさつということが入っていますが、それを1か月だけするというのはそれは何か理由とかありますか。

【回答】

あまりありません。

【小林審査員】

11月に清掃の活動のことを書いていますが、その1か月でチラシを作って配り、チラシを配るのに時間がかかるのに、本番で清掃活動するのがたったの2時間。もうちょっとやったほうが、せっかくなのでいいと思います。それとその2時間の間で公園などって書いてあるから公園以外のものもあると思うんですが、そのたったの2時間でゴミをきれいに取り除けるのですか。

【回答】

さっき質問された時にも答えましたけど、小学生だけでも約200人います。それだけでも十分2時間では広さ的に、できるぐらいの広さだから大丈夫だとは思いますが。あと公園などって言っているから多分ちょっと道とかに落ちているのも拾うと思います。

【井上審査員】

11月に清掃活動のチラシを作って配ると書いてあるんですが、そのチラシを配るのは1か月前に配ったほうが、清掃活動に参加する人たちの都合が良くなると思うから、1か月前にチラシを配ったらいいと思います。

【回答】

9月にチラシを作って配ってから11月にまとめてやると思います。

【 申請団体交流会 】

【こどもファンドアドバイザー】

審査員の皆様方が、みなさんのプレゼンテーションを聞き、そして意見交換をした内容を基にして、審査が始まっていると思います。その時間もったいないので、せっかくこれだけ色々な方がおいでますので、こどもファンドのことや、審査会について皆さんの思いなんか聞かせていただくようなことをやりたいなと思います。

でも皆さん、疲れてないですか。疲れてますよね。僕も横で聞いていて疲れてるぐらいです。

今から、難しいことはやりません。準備をしていただきたいのは皆さんの手元に、こういうビニール袋に入った色紙があると思います。これを使いますので、皆さん出しておいってください。

私は、最初にご紹介いただきましたが、「こうちこどもファンドアドバイザー」という肩書きですが、これも今年初めてこどもファンドに合わせて作られた役割です。

基本的にはどのような役割をするのかと言いますと、皆さんがファンドに応募するまでの間に「どうしたらいいかな」という悩み事などを相談したいとなれば、僕と市役所の方が行って、皆さん方の相談に乗るということです。

そして、皆さんがファンドに応募をされた後に、今日のような審査会までの間にまた悩むと思います。「こんなことをやりたいと思っていたけれども、どうやってみんなの前で発表したらいいかな」という悩みも出てくるかもしれません。そういったときにまた呼んでいただいたら、「こんな発表をしたらどうでしょうね」というような相談ができます。

そして、この後採択か否かという苛酷な判断がありますが、仮に採択をされれば自分たちで考えた「こんなことやりたい」を実際に実施をしていくわけですが、スタートしたらまた悩むことがあると思います。「やろうと思ってたことがなんかうまくいかないなあ」という壁にぶつかる時があるかもしれません。そういった時はまた声をかけていただければ相談にのるために、僕と市役所の方がお伺いをします。

それと、仮に、これはあまり言いたくないです。仮に、残念ながらこのファンドでは採択をされなかった団体さんがいたとしたら、でもそのやりたかったことというのは、多分続けてやっていきたいことだと思うんですね。次は来年はがんばるぞ、といったこともあるかもしれません。そういったときは来年の応募に向けて「じゃあ、今年何がいけなかったんだろう」ということを一緒に考えながら来年はこんな申請をしてみようかという、そういう相談にものっていくと。

そのようなことをやるのがこのアドバイザーですので、気軽に、声をかけていただけたらと思います。私の名前は畠中洋行と言います。

僕はNPO高知市民会議というところにいます。これは市役所のたかじょう庁舎の2階に高知市民民活動サポートセンターというところの、その運営を担っているNPOです。休みでない限り大体そこにいますので、気軽にお立ち寄りいただけるとうれしいです。

ということで早速この5色の紙を使いまして皆さん方と少し交流を図りたいと思います。まずは、ここにおいでてる方のことを教えてもらいたいと思います。



今から5つ項目が出てきます。自分が当てはまるところの色を一斉に「せーの」で挙げていただくようにしたいと思います。これは旗揚げアンケートと言いますが、それをここに5人いる、こどもファンド野鳥の会の皆さんがカウントをして、何人、まあでもアバウトな「ぐらい」という所を数えてくれます。

第1問 今日どのような立場で参加されましたか

赤色：応募をされた方（子ども・大人サポーター）	80名
青色：応募した人の関係者	40名
緑色：こども審査員の関係者	6名
黄色：一般参加者	2名
白色：その他	1名

【アドバイザー】

せーの・・・もちろん、赤が多いのは分かっていますが、青も多いですね。それから緑も。黄色が何人かはいますね。白はほとんどいない。降ろしてください。

では、青の方で、応募した方の関係者。その方はどちらの方？

【参加者A】

高知東高校さんが応募されているところの、資料館の立場で協力させていただいています。

【参加者B】

蒔絵台の住人です。町内会の役員もして、子どもたちをサポートしています。

【アドバイザー】

ここまでご覧になられていて、どんな感じでした？

【参加者B】

レベルが非常に高いです。

【アドバイザー】

子どもたちのレベルですか。

【参加者B】

そうですね。皆さんのレベルが高い。

【アドバイザー】

緑の方に。緑の方はこども審査員の関係者の方。

【参加者C】

大変に勉強になりました。またこんな会が開かれることを願っています。

【アドバイザー】

なぜ、今日は参加してみようと思ったんですか。

【参加者C】

今回が初めてということで、どんなものが興味津々ということもありましたけど、子どもも色々な人と交流ができたことと思いますので、これからも続けていってほしいと思います。



【アドバイザー】

ドキドキしませんでした？

【参加者C】

ここでこんな発表があるとは、僕も思ってなくて。

【アドバイザー】

発表でドキドキした。後は、緑の方が2人いらっしやっただけかな。

【参加者D】

審査員の片岡さんと井上さんの関係者です。

【アドバイザー】

どういうご関係ですか。親御さんじゃないですよ。

【参加者D】

親じゃないです。あの2人が関わっている「とさっ子タウン」というイベントの実行委員を務めさせていただいています。2人の活躍を見に来させていただきました。

【アドバイザー】

今お話をいただいた「とさっ子タウン」というのが、会場の外の「ご自由にどうぞ」のところにチラシが置いてありますけども。これは2009年度から始まった年に1回やっている「子どもが作るまち」というので、小学校4年生から中学校3年生までの子どもたちが参加をして、りょうまスタジアムの建物の中で、大体30種類ぐらいの仕事の体験をする。これは全て本物のプロの方が来てくれて仕事を教えてくれます。ただ、仕事の体験だけじゃなくて、市長選挙をしたり議会選挙があったり、そこで自分たちのまちの課題を自分たちで解決するという「まち」の仕組みを学ぶということをやっている。今日の審査員の先ほど出てきた1人の片岡くんは「とさっ子タウン」の市長さん。もう1人の井上さんは議員さんをしているという人がいたので、気になってご覧に来られたということですね。

それと、黄色の札を挙げていた方がいました。どういう方でしょうか。

【参加者E】

大人のまちづくりファンドは数々拝見させていただいてたんですけども、やはり子どもたちが主体となったファンドというのは初めてなので、どのようなものになるのか、興味があって来ました。

【アドバイザー】

ここまでプロセスを見られて、どんな感想を持たれました？

【参加者E】

すごく子どもたちが一生懸命考えているなということと、その後ろについている大人のサポーターの思いもすごく感じました。

【アドバイザー】

とにかく、こういう取り組みって全国で初めてだと思います。子どもがまちづくりに関わるのを子どもの審査員が審査するというのは、初めてじゃないかと思います。大人のまちづくりファンドの方は、もともと世田谷から始まって、世田谷のやり方を見て高知市がやり始めたんです。本当は世田谷の方でも今年「10代まちづくり部門」というコースを新しく作ったんですけども、残念ながら応募が1件もなかったということで、そういう意味では高知が全国初になったということです。これから全国で「高知はすごいね」という話になってくると思います。

第2問 (先ほど赤を挙げた方の中で) 応募のきっかけは

赤色：おもしろそうだったから	10名
青色：仲間と一緒に何かをしたかったから	40名
緑色：大人に頼まれた、市から頼まれた	25名
黄色：何となく	0名
白色：その他	10名

【アドバイザー】

せーの・・・それでは、赤の方から行きましょうか。そこは土佐チルさんですかね。そこの赤の札を挙げていらっしゃる方でちょっとご意見を。おもしろそうだったからというのは、どういうところに惹かれたからでしょうか。

【参加者1】

私たちが企画するのが楽しそうだったから。

【アドバイザー】

自分たちで企画をすることのおもしろさ。企画したことを実現するおもしろさ。今までそういう経験をされたことはありますか。

【参加者1】

ありません。

【アドバイザー】

では、これが初めての経験？

【参加者1】

はい。

【アドバイザー】

それでは、そのお隣の制服の方も赤を挙げていらっしゃいましたね。

【参加者2】

おもしろいと思ったのは、私は今までイベントは参加する側だったんですが、自分で企画して実行するということをやったことがなかったので、してみたいと思って参加しました。

【アドバイザー】

でもそういうのって、すごく大事な気持ちですよ。やっぱり参加するだけじゃなくて、自分たちで作り上げることができるというのは。経験をしてみたい？じゃあ、これがうまく採択がされるとより一層やる気が出てくると思いますね。ありがとう。

じゃあ、青を挙げていた方が、この辺にいっぱいいたよね。じゃあ、その辺いこう。仲間と一緒に何かをしたかったから、というのに挙げてくださった方で、これまでに仲間と一緒に何かをしたことがありました？

【参加者3】

仲間と一緒に合宿に行ったり、歌ったり、踊ったり、劇をしたりしました。

【アドバイザー】

やっぱりそういうのが楽しいからやってみたいと。実は、彼女も「とさっ子タウン」の市民のひとりですよ。黄色がいなかった。で、その他が10名ぐらいいたと。

【参加者4】

太平洋学園の中に「ボランティアサークルだ」というサークルがあるんですけども、その話し合いの中で、「こういうのがあるよ、やってみようか」となりました。

【アドバイザー】

いざやってみて、どうでした？

【参加者4】

おもしろい。またやりたい。

【アドバイザー】

採択の可否にかかわらず？

【参加者4】

はい。

【アドバイザー】

OK, OK。こうやって伏線を張っておかんとね。後は、緑の方がいっぱいいましたが。「大人の人に頼まれた」、あるいは「市の人に頼まれた」というので、まず子どもさんからいきましょか。キッズ土佐山。大人の人に頼まれて、嫌々という感じだった？しょうがないなあという感じだった？本当のところ。

【参加者5】

まあまあ。

【アドバイザー】

ということはやってみてもいいかな、みたいな気持ちはあったと。

【参加者5】

まあそうですね。

【アドバイザー】

それを大人の方が後押ししてくれたみたいな感じ？

【参加者5】

そんな感じです。

【アドバイザー】

うん、きれいに言えばね。そっか、そっか。それじゃあ、大人の方にいきましょか。市の人に頼まれてということなのかな。

【参加者6】

まあ、そうですね。色々地域の中の声もあり、子ども達にできることもないかな、ということがリンクしたこともあって、今回応募したんですけども。その双方の思い目指すところが一緒になったことで、お願いをしたことになりましたが。興味を子どもたちが元々持っていてくれていたので、そういうところではもって行きやすかったのではないかなと。

【アドバイザー】

一番最初の動機はこれで全然構わないと思います。大人から頼まれた、市から言われたところから入って行って、1年間やってみたら、意外とやるものだということが見えてくると。それでも全然構わないのかな、という気がして。今年は1年目ということで、市役所の方々も、とりあえずこの制度ができて、3月、4月ぐらいに働きかけたんですが、どうしても頼むしかないんですよね。これが、1年たち、2年たち、3年たちしていく中で、ひょっとしたら、この赤の人とか青の人が増えていき始めるとホンマもんのものが見えてくるのかもしれない。でも、今もホンマもんにきつとなっていく期待が持てるというようには思っています。

第3問 (先ほど赤を挙げた方の中で)ここまで終えて今の気持ちは

赤色：発表するうちにやる気が出てきたぞ	6名
青色：とりあえずホッとした	40名
緑色：審査結果が気になってドキドキしている	15名
黄色：疲れた。早く帰りたい	20名
白色：その他	1名

【アドバイザー】

せーの・・・黄色が多い。やっぱり疲れた早く帰りたいという人が多いですね。審査結果が気になるドキドキも多い。ホッとしたというのも多い。うん、赤の人に聞いてみたいな。

【参加者】

がんばってやりたいです。

【アドバイザー】

発表する前まではどうでしたか。

【参加者】

ドキドキした。

【アドバイザー】

ドキドキしよったね。審査員のつつこみが、厳しいつつこみがあると思えば、和める質問もあって、でも、こども審査員は、事前にこの資料をもらって、かなり読み込んできていました。細かいところまで読み込んできていて、僕らも読んでいますけども、全然気がついてないところまでつつこみが入っていたので、「これはちょっと高知の子どもはすごいな」と思いました。

それに対して、一番市役所の方たちや、僕たちが「どうなるのかな」と心配していたのは、ここに立っていて皆さん方が「質問されて本当に答えられるろうか」と心配をしていたし、後ろに座っている保護者の皆さん方を見ていると、「違う、こう言うて」という人もたくさんいました。でも、やはり私たちもできるだけ声をかけないようにしたのは、子どもたちは答えをちゃんと出していましたよね。時間はかかるかもしれないけど、子どもたち同士でお話合いをして、できないことはできないと、わからないことはわからないと、直接的な返事が返っていました。これが大人になってくると、段々ずるくなって、ちょっと誤魔化して答えを言おうかなというのがあるかもしれないですけど、子どもたちは正直ですね。分からないところは分からない。できないことはできない。僕はそれで良いと思います。審査員の方がどう捉えてくれるか後はそちらの話ですので。こども審査員、それとお答えをした皆さんに本当に敬意を表したいと思います。本当に素晴らしい子どもたちだなと思いました。

後、このあたりにいらっしやいましたね。匠カフェの皆さん。やる気が出てきたというその心を聞きたいです。

【参加者】

最初はすごく緊張していたんですけども、練習とかで読んだり、色々考えたりするうちに、ちゃんとやろうとか、もっと積極的にしようと思いました。



【アドバイザー】

ここまでやってきて良かったなと思った？

【参加者】

思いました。

【アドバイザー】

では、黄色が多かったんだっけ。疲れたという。その辺を聞こうか。発表は自分たちでうまくできた？

【参加者】

発表は、練習の中で一番良かったと思います。

【アドバイザー】

そっか、練習の中で一番よくできたか。そうだよ。朝一番乗りですずっと練習していたもんね。じゃあ、審査員の質問に対して、大体全部答えられたかな、と思いますか？

【参加者】

答えられたけど、厳しいつっこみも多かった。

【アドバイザー】

確かにね。まだ全然聞いてないところに行こうかな。東高校。どうですか。今まで自分たちで話し合いをしてきてみて、こういうところがおもしろかったな、とか、あるいは大変やったなということとか、ひとつでもふたつでもあれば。ない？

【参加者】

特にはないです。

【アドバイザー】

じゃあ、発表は自分たちでうまくできた？

【参加者】

発表はうまくできました。

第4問 (自分のところ以外で) 発表を聞いた感想は

赤色：いいな、と思うところがあった	130名
青色：どれもピンとこなかった	0名

【アドバイザー】

せーの・・・圧倒的に赤が多いですね。これは聞きがいがある。赤を挙げた方に尋ねたいのは、どのグループに一番自分が関心を持ったのか、いいなと思ったのか。その理由ですね。

【参加者 a】

介良の道が分かるように、とかを聞いてこれは良いと思いました。

【参加者 b】

高校生で応募されてた方が3つくらいあったと思うんですけども、まちづくりに関心がない世代かなと思っ込んでいたんですけども、立派な企画を出していただいたなと思いました。

【参加者 c】

僕は、匠カフェが良いと思いました。講師とか色々な人の話を聞くのが好きなので。

【参加者 d】

私は、P A P A Sさんのシャッターの落書きを消すというのが分かりやすくて、目に見えてきれいになったというのがわかるかな、と。

【参加者 e】

どれかひとつということはないんですけども、防災関係のことをプレゼンテーションが多かったと思うんですけど、地域全体で考えられている点と、それに子どもも参加しているという点が良いと思いました。

【アドバイザー】

高知では、防災が非常に大事なテーマになっていて、そこに子どもさんの力がどれだけかみ込んでいるかということですね。では、力を入れていた横浜中学校の先生に聞いてみましょうか。

【参加者 f】

介良中学校の史跡を知ってもらおうというところで、長年自分たちが住んできたふるさとの中で、古くから大事にされてきた文化を後世に伝えていこう、オリエンテーリングをしながら、実際に地域を歩いてみようというところが、若い世代からお年寄りまで、そして、それから先へ残していく財産になっていくものだと思います。横浜中学校の方にもきっとそういうものがあるので、これから第2弾につなげていくヒントをいただけたと思います。ありがとうございました。

【アドバイザー】

そういう意味では、高校も含めて中学校とかが、地域の歴史とか史跡で横のつながりを作っていてもおもしろいのかもしれませんね。お互いにそういうのを発表し合ったり。

【参加者 g】

ほほえみキッズのオカリナを作るのがいいなと思いました。

【参加者 h】

みんな良かった。小学生から高校生まで色々な年代があって、小学生も高校生に負けないくらい自分の意見を言えてたし。模造紙もすごくカラフルに工夫していてとても良かったと思います。



第5問 質疑応答を聞いての感想

赤色：なかなかやるなあ	130名
青色：こんなこと高知では当たり前だ	1名
白色：その他	1名

【アドバイザー】

せーの・・・では介良のおふたりに聞いてみたいと思います。なかなかやるなあ、ってどんな感じ

で思っていました？自分もそうだけど、他の人も聞いてみて。

【参加者】

質疑応答は、回答が事前に用意できないじゃないですか。自分のしたいこととかが分かった上じゃないと、両方が納得できる回答ができないと思うんです。そういうところがいっぱいあって良かったなと思います。

【参加者】

子どもたちがすごく緊張していて、答えを聞いてもあっさりひかずに審査員はなかなか粘って聞いていて、すごい怖いと思った。

【アドバイザー】

ちょっと大人の方に聞いてみたいと。土佐チルさんの関係者かな。

【参加者】

来るまでは、子どもたちに質問ができるのかなと思っていました。答える側より質問出す側の方が大変だと思うので、よっぽどきちんと話を聞いて資料を読み込んで来ないと、質問はなかなかできないと思います。「じゃあ、あなた質問をしてください」と言われても私も困ります。本当にバラエティに富んだ質問が出て、大人ではなかなか思いつかないような質問がいっぱい出たので本当にびっくりしました。

【アドバイザー】

そうですね。これってすごいですよね。

【参加者】

審査員のきびしい意見がすごくて。そこに立っていたらと思うとドキドキするような質問が多かったと思います。

【アドバイザー】

発表するというのは準備をしてきているから、自分たちの伝えたいことを3分で伝えるのは何とかできるとしても、そこで言い抜かっていることなど、自分たちが当たり前だと考えていたことが色々な考え方で問いかけてもらえると、一瞬ドキッとしますよね。ドキッとしますけども、それはアイデアをいっぱいくれているということに繋がるんですよね。その質問をしてくれる見方で、考え直してみると、こんなことも考えたらいいんだと。そういうふうに捉えていくと、この質疑というものはおもしろいものなんだと、僕らの方は横にいるから客観的に見られるんですけども。そういうことも大事なのかなと思いました。

第6問 こうちこどもファンドについて

赤色：子どものまちづくりってワクワクするな	15名
青色：子どもと大人が一緒に取り組むことが大切では	100名
緑色：良いことだと思うけど難しいかな	10名
白色：その他	2名

【アドバイザー】

せーの・・・これは青が一番多いかな。まずは、赤から。

【参加者(1)】

こういうまちづくりをやったことがないので、僕たち子どもでできるというのが魅力があった。

【アドバイザー】

自分たちでできるかも、というものは思ってもみなかった？

【参加者(1)】

はい。

【アドバイザー】

でもこれで気がついて。何かでできるかもしれないと。これはすごいね。では、他に大人の方に聞いてみようか。

【参加者(2)】

第1回なので未知の世界でわくわくするというのもあります。ただ、赤と青も半分あるんですが、大人も一緒に助けてあげて、将来思い出づくりのような良い経験ができればいいなと思います。

【アドバイザー】

じゃあ、青を挙げた方もいましたよね。

【参加者(3)】

子どもだけだったら難しいと思うから、大人と一緒にやるのがいいと思う。

【参加者(4)】

正確に言うと、子ども劇場としては青はいつもやっていることです。それが土佐チルは、その中から子どもがやりたいことを子どもたちが企画して運営していくというふうに動いたので、私たちとしては新しい第1歩になります。

【アドバイザー】

ということは、赤に挙げられたと。

【参加者(4)】

決めかねていました。「その他」の白にも入るんじゃないかと。

【アドバイザー】

それでは、クルックさん。

【参加者(5)】

本当は白に挙げたかったんです。なぜかと言うと「思うツボ」やなと思って。でも、クルックのメンバー全員が青を挙げていたので、とてもうれしかったですね。分かっているなこいつらと。

【アドバイザー】

でも、思うツボというのもいいね。

【参加者(5)】

そうですね。今までなかった。子ども会の仕組みというのはもちろん青の世界にあるんですが、やっぱりもう少し手前の質問の中で「どうして申し込んだのか」というところで、あの時もお金欲しいからという正直なところ思ったんですが。そうすればこの活動ももう少し広げられるな、と思いました。

【アドバイザー】

先ほどまきえキッズのお子さんが青を挙げてくださっていたんですが、蒔絵台の大人の方にお聞きしたいんですが、子どもと大人が一緒になって取り組むことが大切って、蒔絵台さんってこれからのモデルになりそうだと、僕は個人的には思っていて、キッズクラブというのを、町内会の組織の中にひとつ位置づけをして、ひょっとしたらその中から町内会の役員さんも出てくるかもしれないぐらい



の構想を将来もたれているのではないかと思ったんですけども。その辺はいかがでしょうか。将来展望です。

【参加者(6)】

そうですね。蒔絵台というのはとても新しいまちなわで、小学生もたくさんいるので、これからの未来を担っていただく子どもたちに本年度キッズクラブを立ち上げようと考えていたんですよ。ちょうどこのこどもファンドがマッチしまして応募させていただきました。どんどん子どもたちを中心に大人も含めてまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。



【アドバイザー】

僕も、「子どもと大人と一緒に取り組む」というのが大切と思っているんですね。まちづくりのことをずっとやっているの。ただ、ここで大事なのは、大人のしていることに子どもを利用するという関係であってはいけないんだろうなということです。大人と子どもが対等な関係であって、実は大人というのは段々年をとって考え方が固くなってきってしまうわけですが、子どもたちは今日聞いていても、我々が考えもつかない発想で言ってくれるんですよ。発想の豊かさとか柔軟さをまず受け止めて、実際に実現しようとするには、世の中たくさんの壁があるので、それを乗り越えるために大人が知恵を貸すというそういう関係のあり方というのって大事だと思います。

そういう大人と子どもの関係を作り上げていけば、今日は地域コミュニティ推進課さんが主催ですけども、各地域で町内会や自治会が色々な課題を抱えていてかなり高齢化をしていて若い人が入ってこないとか、メンバーがいつも同じ人しか集まってこないとかいうことに対して、子どもたちは柔軟な考えを持っているし、子どもたちの地域力というか、子どもの持っている力を地域に生かすということで、ひょっとしたら今言われているコミュニティを見直してみるきっかけが生まれるんじゃないかな、と思って、僕は青かなと考えます。そういったことを、これからひとつの手段としてファンドが活用されていけると、市役所もうれしいんじゃないかなと思っています。ということで、皆様のご協力で、ちょうど時間がきました。ご協力ありがとうございました。休憩をしていただき、ドキドキの審査結果を待ちたいと思います。

【 審査会（別室） 】



【 審査発表 】

審査結果発表

古谷審査副委員長

どうも大変お待たせをしました。審査副委員長の古谷と申します。それでは、審査結果を発表させていただきます。こども審査員と大人審査員による協議の結果は、前に掲示しているとおりです。

あつまれ！土佐チル、助成。

浦戸小学校児童会まちづくりお助けレンジャー、助成。

大津子ども会連合会「クルック・ソングメイツ」、助成。

がんばれ高知工業高校応援隊、助成。

キッズ土佐山、助成。

高知市立介良中学校生徒会、助成。

高知市立横浜中学校生徒会「横中ボランティアの会」、助成。

太平洋学園コミュニティー協力隊、助成。

地域記憶プロジェクト実行委員会、助成。

P A P A S、助成。

以上 10 団体に助成が決定しました。今回、助成が決定したみなさんですが、今日はみなさんが考えた活動の、まずは第一ステージをクリアしたという状態で、これで終わりではありません。

これから、実際の活動に向かって取り組んでいただくこととなりますので、どうぞがんばってください。来年の3月の活動発表会でみなさんの活動成果を聞くことを、大変楽しみにしております。

本当におめでとうございました。

また、今回は残念ですが、不採択とさせていただきましたグループの皆様には、来年の再チャレンジを心から期待してお待ちしております。

今日の審査委員会では、こども審査員と大人審査員で非常に白熱した審査の結果となりました。若い皆さんにはこれからまだまだ無限大の可能性ががあります。果敢に挑戦していただきたいと思います。

私たち審査員は、こんなに高知のまちを熱心に熱く思ってくれる子どもがたくさんいるということを大変うれしく思いました。高知のまちを良くするために、これからも色々なことにチャレンジして頑張ってもらいたいと思います。

本日はありがとうございました。



講評

卯月審査委員長

予定の時間をかなり超えてみなさんに待っていただいて、本当に申し訳ありませんでした。今、副委員長の方からお話もあったように、予想以上にいうのも変ですけども、こども審査員と大人審査員の意見が違った、異なった箇所もかなりあったために、このようになりました。

非公開で行ったこの審査のプロセスを少しでも紹介したいと思います。

この「こうちこどもファンド」は、ご案内のとおり、子どもが主体的に自ら住んでいる地域に自主的にかかわり、そのことを通じて地域の人達とふれあい、コミュニティを推進していこうということであります。従って、子どもの目線で見えていただくということで、こども審査員が主になっています。従って、最終的には9人のこども審査員が5票以上、5人以上助成したいということを選択しました。



何票という得点は持たずに、一つ一つのチームに「助成する」「助成しない」という判断をし、最終的に10の団体が5票以上獲得したということです。ただ、そのプロセスには結構色々な議論がありました。

最初から5票以上獲得したのは、ちょっと今数字を忘れたけど、5団体ぐらいしかなかったと思います。それ以外は、NOという意味ではなく「迷っている」というものがかなり多かった。そのことに対して、大人の審査員から地域性ですとか、合併したとかしていないとか、町なかだとか、かなり離れているだとか、子どもたちがなかなか分かりにくい情報について、大人からその情報を伝えて、大人の判断を伝えたいというので、最終的に子どもたちに判断してもらったということでもあります。あるいは大人の審査員につきましても、「助成する」「今回は難しい」という判断をして子どもと大人の評価を全部1票にして、ひとつずつ議論していったということでもあります。

ひとつひとつのことを申し上げる時間はないですけども、惜しくも選に漏れてしまった3つの団体についてはお話をしておいた方が良くと思いますので、それだけ時間を取らせていただきたいと思います。

「匠カフェ実行委員会」これも本当に最後まで議論をしたグループです。最終的には選に漏れてしまいましたが、本当にギリギリでした。ちょっと印象的だったのは、小学生の審査員は比較的「応援しよう」という意見がありました。高校生の提案に対して年齢が高い子たちが少し厳しい判断をしたということもありますし、最後の方の決め手になったのは、もちろん人材養成とか子どもたちの将来の職業選びには貢献するかもしれないけども、すぐにこれが高知のまちづくりに貢献するだろうかというようなポイントが大きな決め手になったと思います。もちろんそれが、まちづくりに繋がらないとは全く思いませんけれども、その人材養成、人材育成ということがまちづくりに繋がっていく道筋がまだきちんと示されてなかったのではないかと思います。むしろ、次年度に向けて提案していただければ、小学生とか中学生に対してもあまり知らない職業、高知で働いている、県外よりもむしろ県内のまだ知られてない職業等も紹介していただくと、より県内のまちづくりに繋がるといった意見が出されまして、本当に惜しかったです。今回は選に漏れてしまいました。

それから、「一ツ橋ほほえみキッズ」。これも最後まで議論になりました。やはり、決め手というか、議論になったのは、オカリナを作って手作りみんなでやって、その吹き方を習って、地域や老人施設でやっていこうということであったのですが、これはこれでよく分かるのですが、オカリナを作って、地域に行くということ、そのことを、先ほども申し上げた「地域のまちづくり」とどのように繋げて考えるのかということが少し弱かったという印象があります。これは比較の問題なので、他のグループの活動計画と比較をしたときに、少し弱かったのではないかと思います。あと、こども審査員から指摘されたのは計画の中で少し空白があって、「そこで何をやるだろうか」という疑問も少し生まれたことが、1年間の計画ということになっていきますので、少し票が伸びなかったという印象で、このような結果になりました。

もうひとつは、「まきえキッズ」です。これは質疑応答の中にもありましたが、あいさつ運動と防災キャンプという大きな2つの柱がありました。あいさつ運動は、かなりこども審査員の方から支持もあって、「とても重要だ。こういう新しいコミュニティの中でそういうことをしていくのはとても良い」という評価があったのですが、そのあいさつ運動と防災キャンプの関係というのですかね、ちょっと見えにくいね、ということでした。特に内訳というか、助成金のほとんどが防災キャンプの用品に充てられているということも、もうひとつ「あいさつ運動」と「防災まちづくり」の観点が分かりにくいということでありまして、発表した子どもたちも5月から始めて、町内会・自治会の方と連携してきた点でちょっと準備不足という印象が否めなかったというのが事実であります。これも相対的なもので他のグループが準備してきて書いてきたことと比べて、ちょっとそういう視点が指摘されたということであって、やろうとしていること、あるいは答えていることが間違っている方向ということではなく、当然こういった蒔絵台のような住宅地でやって欲しい、やるべきだと我々は思っておりますけれども、13団体の中では少し準備不足という印象から、今回選に漏れたというように思っています。

ということで、待たせたにもかかわらず選に漏れてしまったところに対しては申し訳ない気持ちでありますけれども、先ほど副委員長の方からもあったように、やることがよくないと言っている意味でなくて、全部に活動してほしいわけですが、適切な活動に適切な助成金を出したいというのが我々の意図でありますので、次年度もう少し計画を練っていただいて、出していただければ、この3つの団体は次年度はかなり上位で助成されると思っています。今申し上げたようなことも少し考慮していただきたいと思います。

以上でございます。ありがとうございました。



こども審査員からの感想発表

【森田審査員】

今回この審査会を通して、皆さん、この高知をより良くしたいというのがとても伝わってきました。この審査を通して、小学生や中学生とも交流ができて、とても濃い話し合いができて、とても良い経験になったと思います。ありがとうございました。



【細川審査員】

プレゼンお疲れさまでした。皆さん、小学校とか中学校とか若い小さい人もいると思うんで、これから皆さんの地域をより良い素敵なものにしていってください。お願いします。ありがとうございました。



【藤村審査員】

皆さんのプレゼンテーションを聞いて、自分の周りの地域や高知を良くしていこうという想いが伝わってきますし、自分自身すごい良い刺激を受けることができました。小中学生の皆さんや大人審査員の方と意見交換することもとても良い経験になりました。ありがとうございました。



【杉村審査員】

今回、たくさん「高知を良くしたい」という意見を聞いて、すごくみんなが高知を良くしていきたいという情熱みたいなものが良く伝わってきたので、そういうところがすごくうらやましく思いました。来年ももっと色々なことが出来たらいいなと思うので、皆さん、もっと地域を良くしていくために考えてください。ありがとうございました。



【小林審査員】

僕は、初めてこのプレゼンテーションを聞いて、色々な意見を取り入れられてこれからの生活やまちづくりに生かしていけると思いました。

ありがとうございました。



【井上審査員】

私は、皆さんがプレゼンした発表を聞いて、「こんなまちにしたい」という想いがすごく伝わってきました。なので、来年もこのこどもファンドという企画があったら、ぜひ参加していただきたいと思っています。ありがとうございました。



【戸田審査員】

初めてやってみて、本当にプレゼンテーションとかを聞いてみてもやっぱり「自分たちのまちを良くしよう」という皆さんの気持ちが伝わりました。本当にそういう気持ちは大事だと思うので、これからもそういう気持ちを持って、自分のまちを良くするために色々な活動に参加して、がんばってください。



【片岡審査員】

僕たちは初めてこんなことをするんですが、皆さんからたくさんの発想や意見を聞いて審査をやりました。難しいこともありましたが話し合いをしながら、高知の未来を考えながらできて良かったです。



【池上審査員】

今日皆さんのプレゼンテーションを見てとても「地域をよくしていきたい」という熱意が伝わってきました。自分が審査するときもとても悩みました。採用されたチームも採用されなかったチームも来年度に向けて、一生懸命活動を頑張ってください。今日はありがとうございました。



【発行】

高知市 市民協働部 地域コミュニティ推進課

〒780 8571 高知市鷹匠町 2 丁目 1 - 43

TEL / 088 - 823 - 9080

FAX / 088 - 823 - 9794

<平成 24 年 7 月発行>